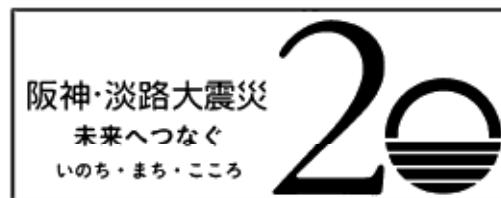


# 防災についての市民アンケート結果報告



芦屋市阪神・淡路大震災 20 周年事業

# 目 次

調査の概要	1
1 阪神・淡路大震災の記憶や経験・教訓の継承について	2
2 災害に対する備えについて	9
3 災害が発生した時の避難について	17
4 市の防災情報や防災対策について	23
5 回答者の属性について	35
6 インターネットやソーシャルネットワークの活用について	40
7 アンケート結果のまとめと今後の課題	43
付録 調査票	47

## 調査の概要

本市では、震災の記憶や経験・教訓の継承と災害に強いまちづくりを推進するため、阪神・淡路大震災 20 周年事業の一環として、芦屋市に住民登録をされている 20 歳以上の方 3,000 人を対象として、防災についてのアンケート調査を行いました。

調査の対象	本市に住民登録をしている 20 歳以上の方のうち無作為に抽出した 3,000 人
実施期間	平成 26 年 10 月 31 日～11 月 21 日
実施方法	郵送（発送・回収とも）
回収票数	1,592 票（回収率 53.1%）

平成 16 年 7 月に行った「芦屋市まち・人・暮らし活性化推進アンケート」の回収率は 54.1% でした。本調査でも回収率は 53.1% と、大きな差はありませんでした。

□ 設問に対する回答は、下記の種類があります。

① 選択肢をひとつだけ選んでいただくもの（単一回答：SA）

② 選択肢を指定した個数あるいはあてはまるすべてを選んでいただくもの（複数回答：MA）

③ 文章など自由記入で回答いただくもの（自由回答）があります。

結果を示す際は、単一回答の集計では構成比（%）を、複数回答の集計では実際の件数を基本としています。

□ 単一回答（SA）の集計では、全回答のうち無記入を除いた有効回答数を【N=（数字）】で示しています。

なお、複数回答（MA）の場合は【MA】と表記しています。

□ 構成比（%）は、一部を除いて整数で表記しています。小数第一位で表記した集計は、四捨五入により合計が 100%にならない場合があります。

□ レイアウトの都合上、アンケート調査票に記載された選択肢の文言がすべて表記できていない部分があります。送付に用いた調査票を巻末に記載しておりますので、必要な場合はそちらでご確認ください。

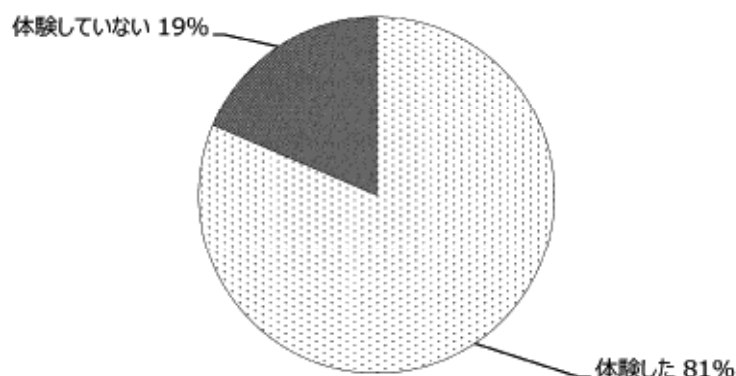
## 1 阪神・淡路大震災の記憶や経験・教訓の継承について

問1 あなたは、阪神・淡路大震災を体験されましたか。(〇は1つ)

震災の記憶や経験・教訓の継承は、これからの大きな課題になっていく可能性があります。今回の調査でも、回答者のおよそ2割が阪神・淡路大震災を「体験していない」と答えています。

平成16年実施の「芦屋市まち・人・暮らし活性化推進アンケート」における震災経験者が86.9%であるのに対して今回は81%となっていますが、芦屋市以外での被災地の体験者も含め、十分に震災を語ることでできる状況と考えられます。

【N=1,579】



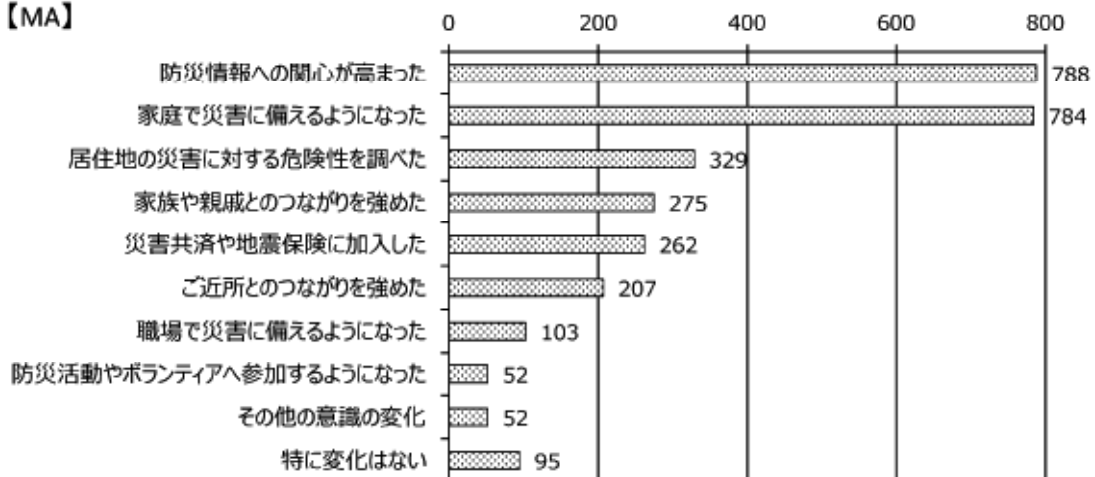
問2 震災を体験した当時、あなたの考え方や行動に変化はありましたか。あれば特に変化があったのはどのような内容ですか。(〇は3つまで)

阪神・淡路大震災を「体験した」と答えた方(1,283人)に当時の意識や行動の変化を3つまで挙げていただいたところ、特に多くの方が「防災情報への関心が高まった」、「家庭で災害に備えるようになった」の2つを選ばれています。一方で、「特に変化はない」との回答も95件ありました。

「芦屋市まち・人・暮らし活性化推進アンケート」では単一回答でしたので、複数回答の本調査と単純な比較はできませんが、前回「となり近所などの他人との結びつきを大切に思うようになった」が50.1%でしたが、今回の「ご近所とのつながりを強めた」では16.1%となっています。

一方で、前回55%だった「将来に対する備えを十分にすべきと思うようになった」は、今回の「家庭で災害に備えるようになった」が61%、「職場で災害に備えるようになった」が8%、「災害共済や地震保険に加入した」が20.4%など、具体的な行動に結びついているようです。

【MA】



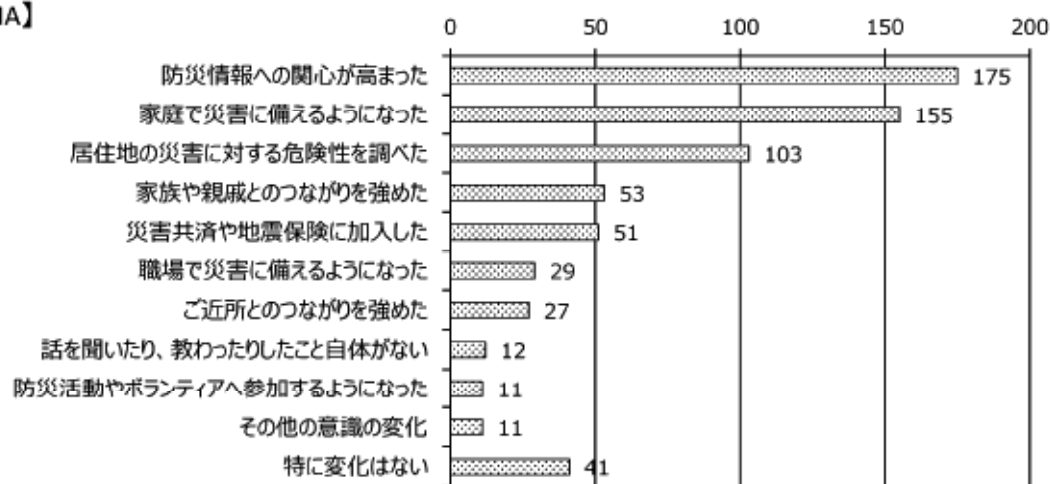
1.2.4.7 は以前から行っていたが大切な事と声を大にして行うようになった	職場の無理解と冷淡な姿勢を痛感し転職の契機となった 寝室に家具を置かない
1日1日を意識して大切に生きるようになった	人や物への優先順を考えるようになった
1日1日を悔いなく生きるように心がけた	人生観が変わった
1日を大切に過ごしていこうと思った	他の災害に募金するようになった。仕事や介護があって防災活動やボランティア参加ができないので
シンプルライフを心がけようと思った	大きな災害の時は消防、あるいは役所は十分に機能しないので自助努力、すべて自分たちで解決する意識が必要
すぐに持ち出せるようにまとめてある	地震シンドロームになり地下鉄に乗れなくなった
また水が出なくなることを想定しお風呂のお湯はすぐに流さず翌朝掃除して流すようにした。	地震に敏感になった
まとまった金額の現金・預金が必要	地震速報を気にする様になった。 津波の影響を考えた
安全神話のあった神戸の街で大震災に遭い、どこの土地にも起こる災害の怖さを知った。	背の高い家具不安定な家具を選ばない 被災した場所では生活したくないと思った
引っ越し先の仮設が火事になったので火の元の安全にとても注意するようになった	非常事態に対応できるよう体調を整えて、整理整頓に心がける
家を建て替えた	普通に生活できるのは当たり前ではないと感じた
行政ウオッチ	防災用品を揃えた
国や行政は当てにならない	命があれば何とかかなと思った
国内の災害に関心が強まった。話し合が増えた。	命の大切さ、災害に対する危険性とは異なる居住地選びの大切さ
災害対策が重要と認識したが未実施	明日何が起こるかかわからないと思うようになった
自然災害の怖さについて	木造でなくしっかりした鉄骨の入った家が安心。水の保存の必要性
社会の注目期間は短い。現実生活へと意識を早く戻すべきであった。	
車のガソリンをフルにしておく	
車の燃料は常に満タン	
助け合いの大切さをいっそう感じるようになった	

問3 家族や友人など周囲にいる阪神・淡路大震災を体験した人から、阪神・淡路大震災の話の聞いたり、自分で調べたりしたことにより、あなたの考え方や行動に変化はありましたか。あれば特に変化があったのはどのような内容ですか。（〇は3つまで）

実際に震災を体験した人と同じく、「防災情報への関心が高まった」と「家庭で災害に備えるようになった」が多くなっています。

一方で、「話を聞いたり、教わったりしたこと自体がない」との回答が12件、「特に変化はない」との回答は41件ありました。

【MA】



もしここで地震が起きたらどうするか時々考える

地震が起きた時のとっさの行動を具体的に考えるようになった

子どもと連絡が取れるように決めた

家具の配置

寝室に倒れるものをおかないようになった

服装や食品備蓄に気を付ける

震災直後の色々な情報収集の大切さを学んだ

自然の脅威が自分の身にふりかかることがあると意識した

恐怖心が強くなった

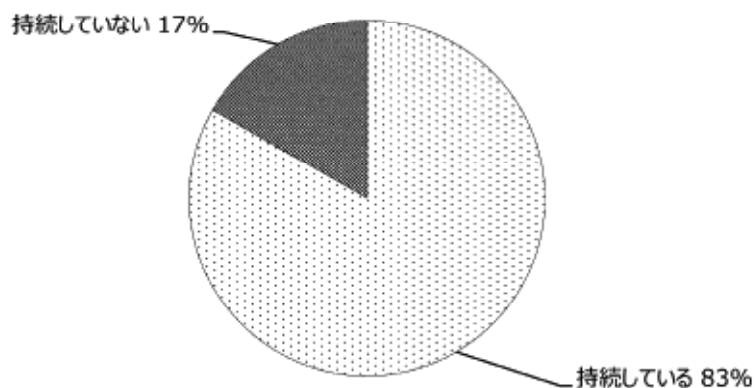
老人でよく分からない

時々、避難する場所の候補について家族で話す

問 4 【問 2 または問 3 で変化があったと答えた方のみお答えください】阪神・淡路大震災から 20 年が経とうとしていますが、問 2 または問 3 で答えたあなたの考え方や行動は現在まで持続していますか。

8 割以上の方が、阪神・淡路大震災の発生当時に変化した考え方は現在まで「持続している」と回答しています。

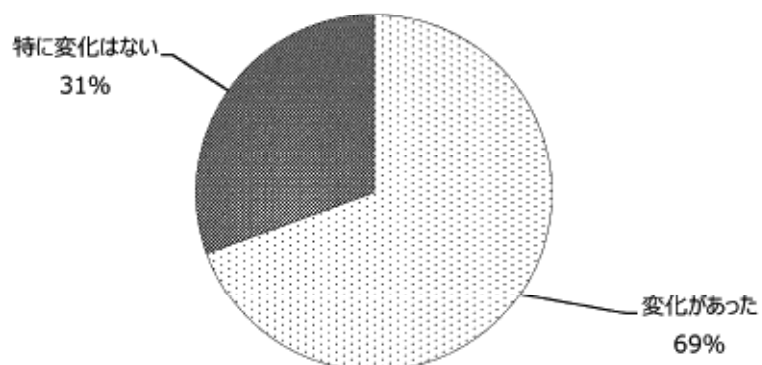
【N=1,388】



問 5 阪神・淡路大震災以降の自然災害がきっかけで、あなたの考え方や行動に変化はありましたか。

阪神・淡路大震災から 20 年を経過する中で、多くの自然災害が発生しました。回答者の約 7 割が、これらの災害によって意識や行動が変化したと答えています。

【N=1,547】

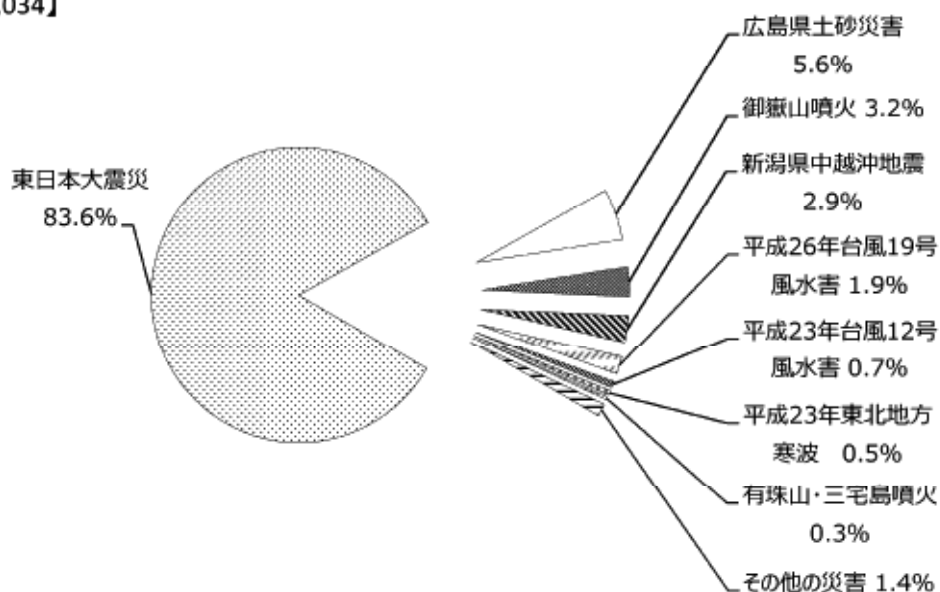


問6 【問5で「1.変化があった」と答えた方のみお答えください】あなたの考え方や行動に特に変化をもたらすきっかけとなったのはどの災害ですか。(〇は1つ)

問5で「変化があった」と答えた方を対象に、変化の大きなきっかけとなった災害を挙げていただいたところ、8割以上が「東日本大震災」と回答されています。

一方で、台風などによる土砂災害や浸水被害を挙げた人もおり、「その他の災害」の中では丹波市・洲本市の台風被害や神戸市の都賀川水難事故が挙げられるなど、倒壊や火災の被害が大きかった阪神・淡路大震災とは様相が異なる災害も、私たちの考え方や行動に変化をもたらすきっかけとなっていることを示しています。

【N=1,034】



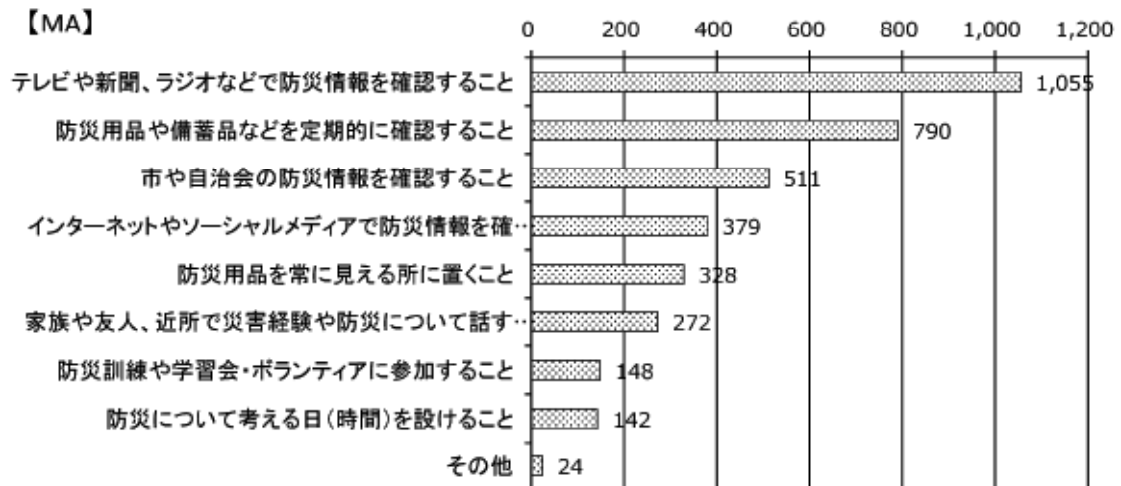
阪神・淡路大震災（仮設での火災に遭った事、阪神大震災時には被害の少ない地域に住んでいて問題がなかったが芦屋市に住むようになり考えが変わった、等を含む。）	6
2004年の洲本市の災害	1
新燃岳噴火	1
丹波市土砂災害	1
都賀川水難事故	1
大雨あれば	1
ここ数年の震災・水害すべて（全て。最近、災害がひんばん、を含む）	2



問7 防災意識を高めたり、持続されるために必要と思うことは何ですか。(〇は3つまで)

「テレビや新聞、ラジオなどで防災情報を確認すること」の回答が最も多く、1,000件を超えています。次いで、「防災用品や備蓄品などを定期的に確認すること」が多くなっています。

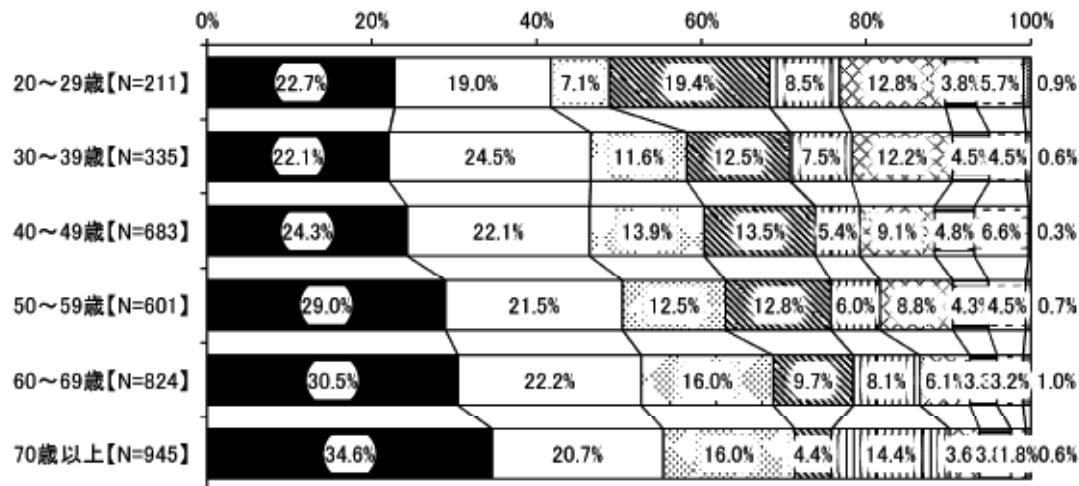
一方で、「防災訓練や学習会・ボランティアに参加すること」や「防災について考える日(時間)を設けること」は相対的に少なくなっています。



## 回答者の年代別にみた防災意識を高めたり持続するために必要なこと

回答者の年代別に「防災意識を高めたり、持続されるために必要と思うこと」をみると、「インターネットやソーシャルメディアで防災情報を確認すること」は20歳代で最も多く、逆に「市や自治会の防災情報を確認すること」が最も少なくなっています。

また、「防災用品や備蓄品などを定期的に確認すること」は30歳代で最も多く、「防災用品を常に見えるところに置くこと」は70歳代で最も多くなっています。



- テレビや新聞、ラジオなどで防災情報を確認すること
- 防災用品や備蓄品などを定期的に確認すること
- 市や自治会の防災情報を確認すること
- インターネットやソーシャルメディアで防災情報を確認すること
- 防災用品を常に見えるところに置くこと
- 家族や友人、近所で災害経験や防災について話す機会を増やすこと
- 防災訓練や学習会・ボランティアに参加すること
- 防災について考える日(時間)を設けること
- その他

## 2 災害に対する備えについて

問8 現在あなたが災害に備えて行なっているものに、それぞれ○をつけてください。

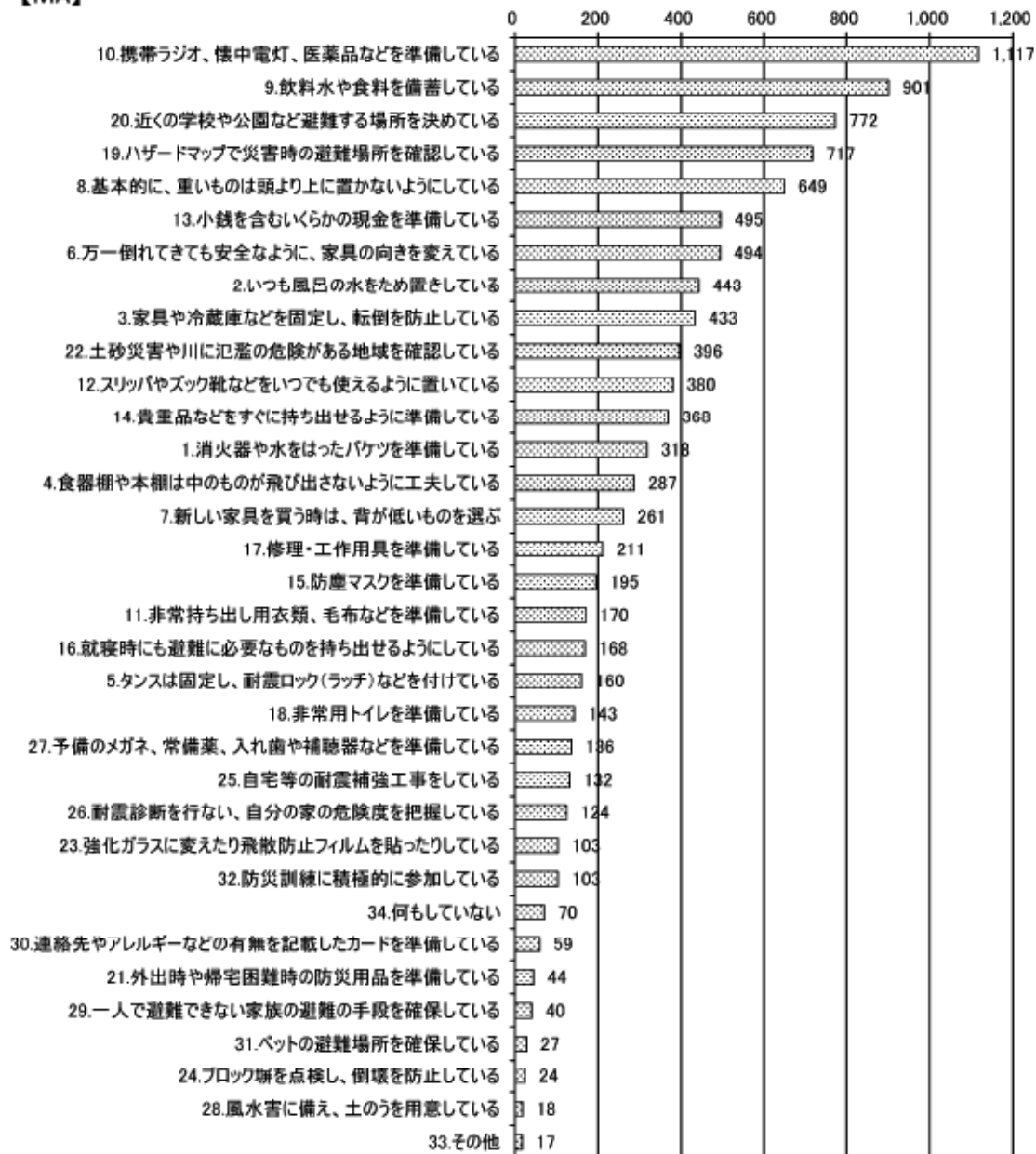
1. 消火器や水をはったバケツを準備している	318
2. いつも風呂の水をため置きしている	443
3. 家具や冷蔵庫などを固定し、転倒を防止している	433
4. 食器棚や本棚は揺れによって中のものが飛び出さないように工夫している	287
5. タンスは固定し、扉が開いたり引き出しが飛び出さないように耐震ロック(耐震ラッチ)などをつけている	160
6. 万一倒れてきても安全なように、家具の向きを変えている	494
7. 新しい家具を買う時は、背が低いものを選ぶ	261
8. 基本的に、重いものは頭より上に置かないようにしている	649
9. 飲料水や食料を備蓄している	901
10. 携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している	1,117
11. 非常持ち出し用衣類、毛布などを準備している	170
12. スリッパやズック靴などをいつでも使えるように置いている	380
13. 小銭を含むいくらかの現金を準備している	495
14. 貴重品などをすぐに持ち出せるように準備している	368
15. 防塵マスクを準備している	195
16. 就寝時にも、避難に必要なものをすぐに持ち出せるよう準備している	168
17. 修理・工作用具を準備している	211
18. 非常用トイレを準備している	143
19. ハザードマップで災害時の避難場所を確認している	717
20. 近くの学校や公園など避難する場所を決めている	772
21. 外出時や帰宅困難時の防災用品を準備している	44
22. 土砂災害や川に氾濫の危険がある地域を確認している	396
23. 窓ガラスを強化ガラスに替えたり、ガラス類に飛散防止フィルムを貼ったりしている	103
24. ブロック塀を点検し、倒壊を防止している	24
25. 自宅等の耐震補強工事をしている	132
26. 耐震診断を行ない、自分の家の危険度を把握している	124
27. 予備のメガネ、常備薬、入れ歯や補聴器などなければ困るものを準備している	136
28. 風水害に備え、土のうを用意している	18
29. 一人で避難できない家族の避難の手段を確保している	40
30. 家族とはぐれた際に備え、連絡先やアレルギーや病気の有無について記載したカードなどを準備している	59
31. ペットの避難場所を確保している	27
32. 防災訓練に積極的に参加している	103
33. その他	17
34. 何もしていない	70

## 回答数の多い順にみた備えの状況

災害に備えて行っている対策を回答数の多い順にみると「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している（1,117件）」が最も多く、「飲料水や食料を備蓄している（901件）」が続くなど、避難時に必要性が高く調達が困難と予想される物品・医薬品の確保を特に重視する人が多くなっています。

また、「近くの学校や公園など避難する場所を決めている（772件）」、「ハザードマップで災害時の避難場所を確認している（717件）」など、確実に避難するための段取りを重視する人も多いようです。

### 【MA】



寝室に家具を置いていない（タンス部屋に置いている，不要な物を整理し家の中を整理し身軽な生活を心がけている，要らない食器や衣料を庭に置いている，等を含む）	6
職場に帰宅の為に地図を置いている（保育所・学校までの送迎手段を何通りかでシミュレーション，連絡が取れない場合待ち合わせ場所の打ち合わせ，避難所生活にそなえ簡易枕・アイマスク・スリッパを用意している，等を含む）	4
ライトを各部屋に置いている	1
診察券，薬手帳	1
ペット（ねこ）を入れるかごを確保している。	1
地震保険加入	1
自治会などの訓練参加	1
市の防災情報を常に気にしている	1
防災士の資格を取得した	1

## 回答者の年代別にみた対策

年代別・項目別に回答数をみると、「6. 万一倒れてきても安全なように、家具の向きを変えている」が40歳代で、「13. 小銭を含むいくらかの現金を準備している」が70歳以上で上位5項目に入っています。

一方、「32. 防災訓練に積極的に参加している」が20～29歳で、「30. 家族とはぐれた際に備え、連絡先やアレルギーや病気の有無について記載したカードなどを準備している」が20～50歳代で下位5項目に入っています。

回答項目	回答数（網かけは上位5項目，塗り潰しは下位5項目）						
	全体	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1. 消火器や水をはったバケツを準備している	316	6	18	44	62	75	111
2. いつも風呂の水をため置きしている	438	16	26	65	78	102	151
3. 家具や冷蔵庫などを固定し、転倒を防止している	431	21	36	86	76	97	115
4. 食器棚や本棚が揺れによって中ものが飛び出さないように工夫している	282	15	29	45	43	65	85
5. タンスは固定し、扉が開いたり引き出しが飛び出さないように耐震ロック（耐震ラッチ）などをつけている	159	11	7	26	28	37	50
6. 万一倒れてきても安全なように、家具の向きを変えている	485	30	40		102	103	100
7. 新しい家具を買う時は、背が低いものを選ぶ	257	13	19	40	51	64	70
8. 基本的に、重いものは頭より上に置かないようにしている				105			
9. 飲料水や食料を備蓄している							
10. 携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している							
11. 非常持ち出し用衣類、毛布などを準備している	165	6	15	35	24	33	52
12. スリッパやズック靴などをいつでも使えるように置いている	373	13	23	57	59	92	129
13. 小銭を含むいくらかの現金を準備している	490	19	32	75	85	118	
14. 貴重品などをすぐに持ち出せるように準備している	362	22	32	48	54	86	120
15. 防塵マスクを準備している	188	10	11	36	35	39	57
16. 就寝時にも、避難に必要なものをすぐに持ち出せるよう準備している	164	6	13	29	31	31	54
17. 修理・工作用具を準備している	207	8	18	37	46	50	48
18. 非常用トイレを準備している	142	4	12	34	30	33	29
19. ハザードマップで災害時の避難場所を確認している							149
20. 近くの学校や公園など避難する場所を決めている							
21. 外出時や帰宅困難時の防災用品を準備している	44	4	5	12	10	6	7
22. 土砂災害や川に氾濫の危険がある地域を確認している	390	20	25	75	87	107	76
23. 窓ガラスを強化ガラスに替えたり、ガラス類に飛散防止フィルムを貼ったりしている	102	4	6	15	25	26	26
24. ブロック塀を点検し、倒壊を防止している	24	1	0	5	8	3	7
25. 自宅等の耐震補強工事をしている	128	13	5	16	26	26	42
26. 耐震診断を行ない、自分の家の危険度を把握している	122	7	5	26	19	26	39
27. 予備のメガネ、常備薬、入れ歯や補聴器などなければ困るものを準備している	132	7	6	20	21	28	50
28. 風水害に備え、土のうを用意している	18	0	1	2	5	5	5
29. 一人で避難できない家族の避難の手段を確保している	40	2	2	8	7	9	12
30. 家族とはぐれた際に備え、連絡先やアレルギーや病気の有無について記載したカードなどを準備している	59	3	3	10	4	15	24
31. ペットの避難場所を確保している	27	3	1	4	6	10	3
32. 防災訓練に積極的に参加している	101	3	10	19	14	23	32

問9 避難した先に十分な備蓄があるとは限らないため、避難する際には、準備している備蓄を持参することが必要です。ご自宅に、災害用に備蓄する飲料水・食料（調理不要な食品）は、最低何日分が必要だと思いますか。また、実際にご自宅では何日分を備蓄していますか。

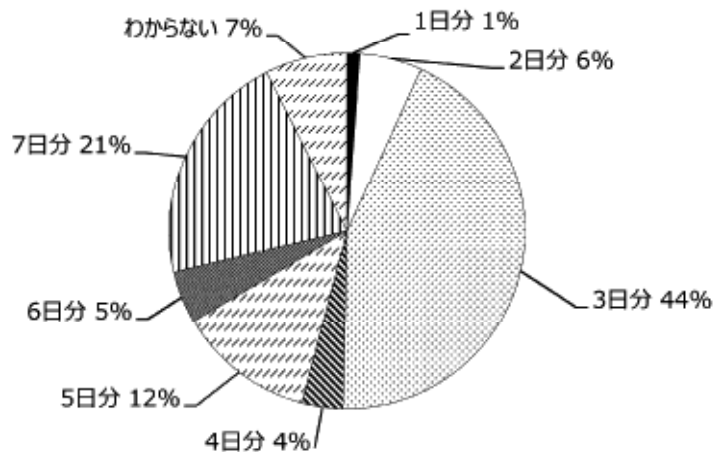
避難した先に十分な備蓄があるとは限らないため、避難する際には自らが準備している備蓄を持参することが重要となってきます。

必要な備蓄が「3日分」以上と答えた人は回答者の8割を超えていますが、実際に自宅で3日以上を備蓄をしている人は回答者の5割強にとどまっています。

また、まったく「備蓄していない」と答えた人も、回答者の2割を超えています。

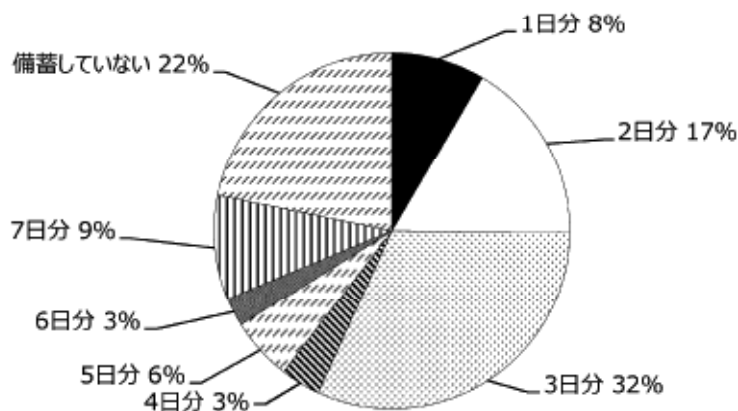
### (1) 何日分の備蓄が必要だと思いますか

【N=1,555】



### (2) ご自宅では何日分備蓄していますか

【N=1,546】



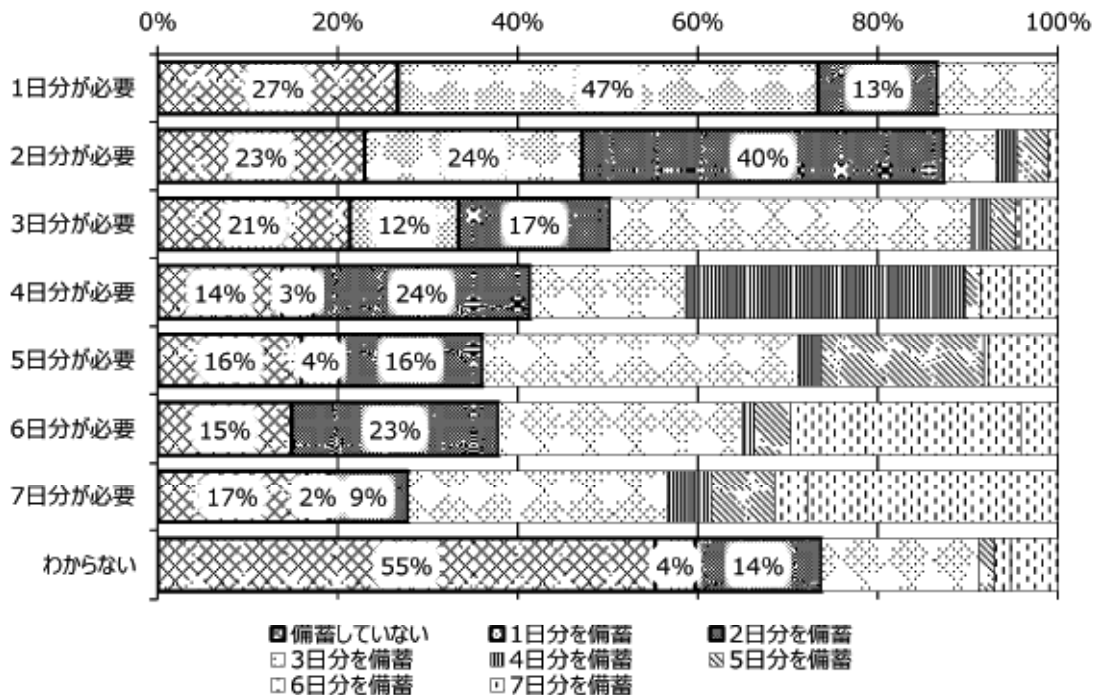
### (3) 必要だと思う備蓄の日数別にみた実際に備蓄している日数

5日分以上が必要だと考えていても、実際に備蓄しているのは3日分程度という回答が多くなっています。

また、3日分以上が必要だと考えていても、実際の備蓄は2日分以下という回答が3割から5割程度あります。

必要な備蓄日数が「わからない」と答えた人は、半数以上が備蓄をしていません。

		自宅での実際の備蓄（網かけは最も多い実際の日数）								合計
		備蓄していない	1日分	2日分	3日分	4日分	5日分	6日分	7日分	
必要と考える備蓄	1日分	4	2	2	0	0	0	0	15	
	2日分	20	21	5	2	3	0	1	87	
	3日分	142	80	112	14	19	4	27	665	
	4日分	8	2	14	10	1	2	3	58	
	5日分	31	8	31	5	35	1	15	194	
	6日分	11	0	17	1	3	19	3	74	
	7日分	54	8	29	16	23	12	91	327	
	わからない	5	16	20	0	2	2	6	114	
合計	333	131	256	56	86	40	146	1,534		

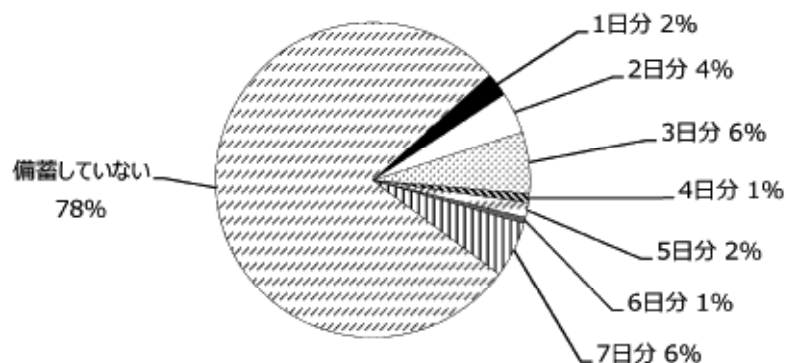




問 10 【該当される方のみお答えください】アレルギー疾患のある方や食事療法をされている方のための特別な食料は何日分を備蓄していますか。

回答者のうち8割近くが「備蓄していない」と答えています。

【N=330】

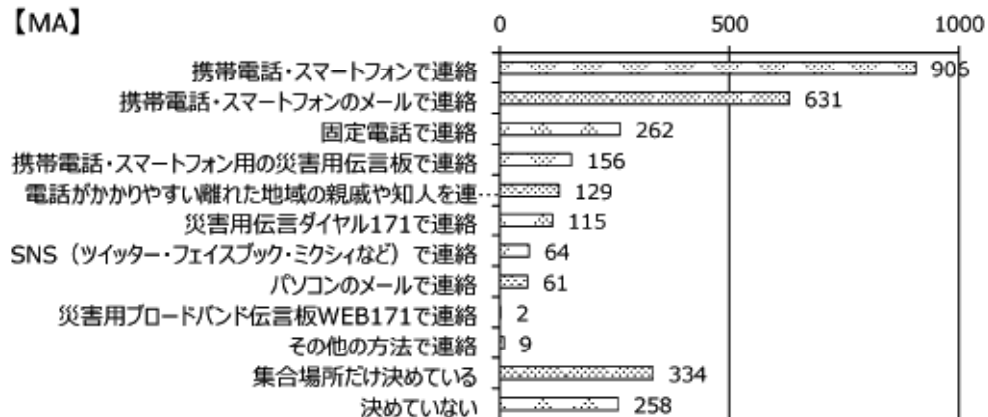


問 11 あなたの世帯では、地震や風水害などの災害が発生した時に家族と一緒にない場合、家族との集合場所や連絡方法をどのように決めていますか？（〇はいくつでも）

携帯電話やスマートフォン（通話）で連絡を取ると答えた人が最も多く、次いでメールが多くなっています。

また、連絡が取れない状況を想定してか、3番目に多かったのは「集合場所だけ決めている」と答えた人でした。

【MA】

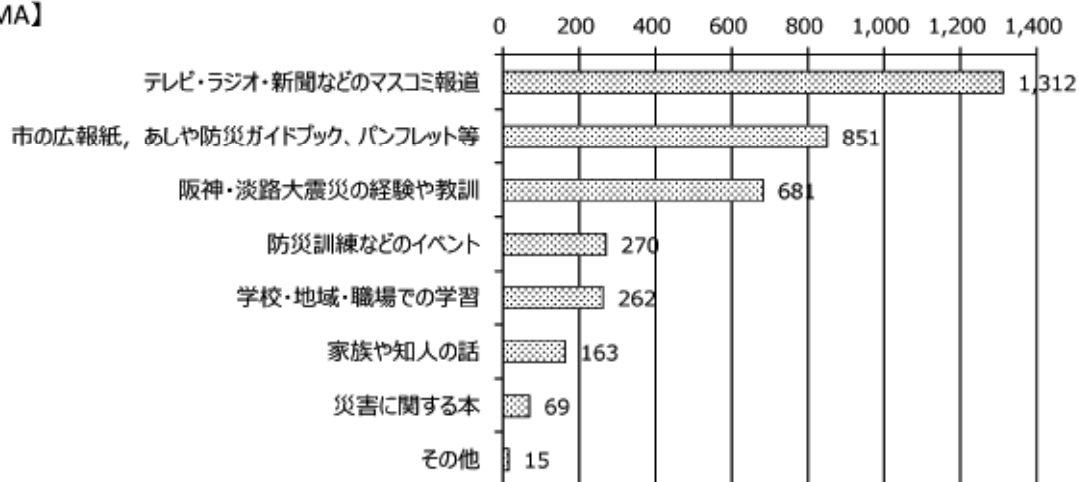


LINE	1
他県にいる子ども、親族の電話番号を常に持っている	1
第1希望～第3希望まで避難場所を決めていて、そこで集合することになっている	1
直接行く	1
民生委員に任せている	1

問 12 災害への備えをするために何が参考になると思いますか。(〇は3つまで)

「テレビ・ラジオ・新聞などのマスコミ報道」が最も多く、次いで「市の広報紙、あしや防災ガイドブック、パンフレット等」など市の配布物が多くなっています。

【MA】



インターネット情報（net, インターネット他からの災害・防災についての情報, メールで災害があったとき知らせてもらっている, 等を含む）	4
各家庭により異なると思うので総合的な情報	1
自治会での注意喚起・問題の共有	1
瞬時に判断し行動すること	1
何も参考にはならない, 自分の経験のみ	1
備えと現実は違うので前から訓練してもあまり役に立たない	1

### 3 災害が発生した時の避難について

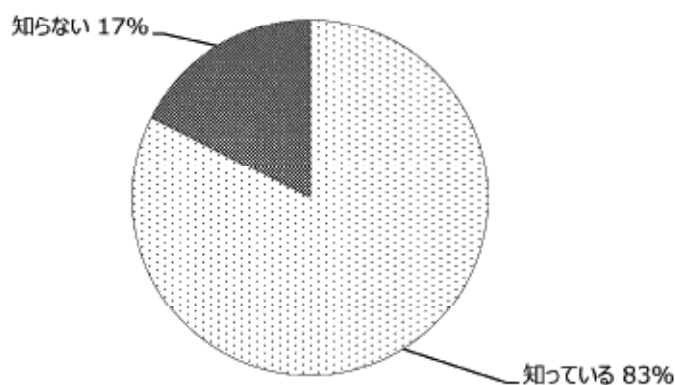
問 13 災害時の避難場所（近隣の避難所，国道 43 号以南の津波一時避難施設（津波避難ビル））がどこにあるかご存知ですか。

災害時には，自分がいる場所付近にある避難所や，津波一時避難施設（津波避難ビル）の位置を把握しておくことが重要です。

近隣の避難場所については，回答者のうち 8 割以上の人々が「知っている」と答えていますが，津波発生時に一時的な避難の場所となる津波避難ビルの位置については，6 割以上の人々が「知らない」と答えています。

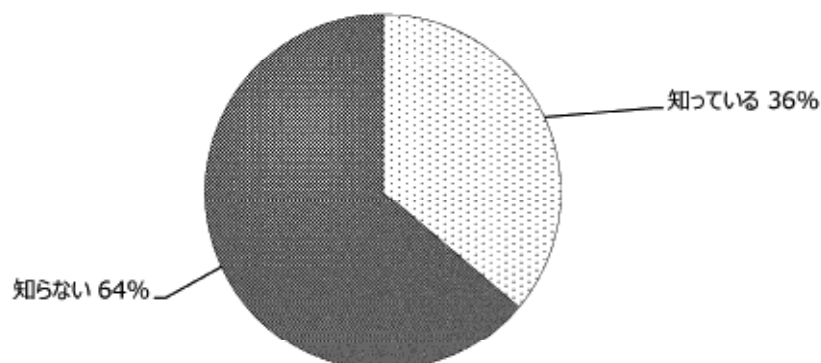
#### (1) 近隣の避難所

【N=1,532】



#### (2) 国道 43 号以南の津波一時避難施設（津波避難ビル）

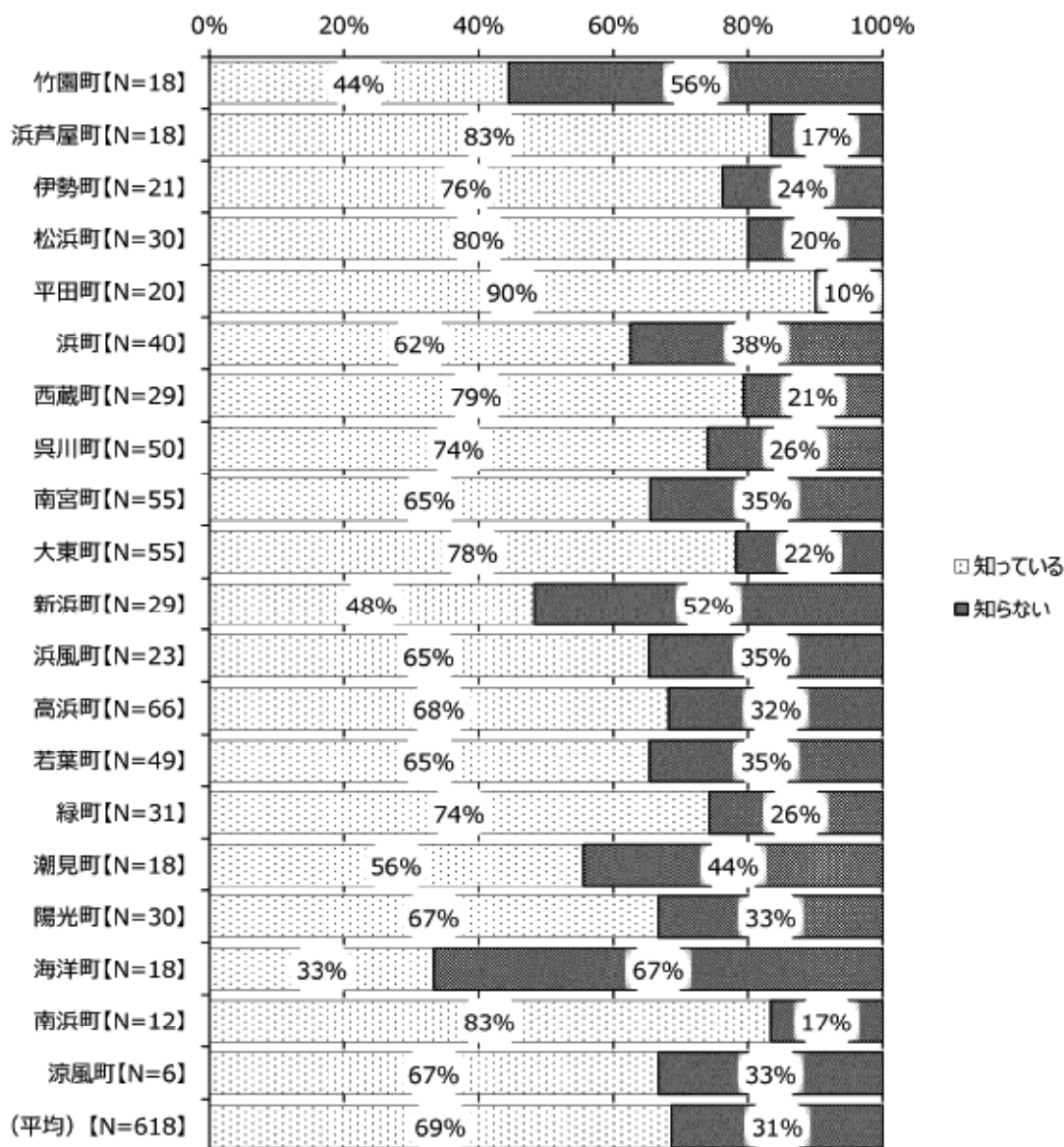
【N=1,411】



### 国道 43 号以南の町別に見た津波一時避難施設（津波避難ビル）の認知度

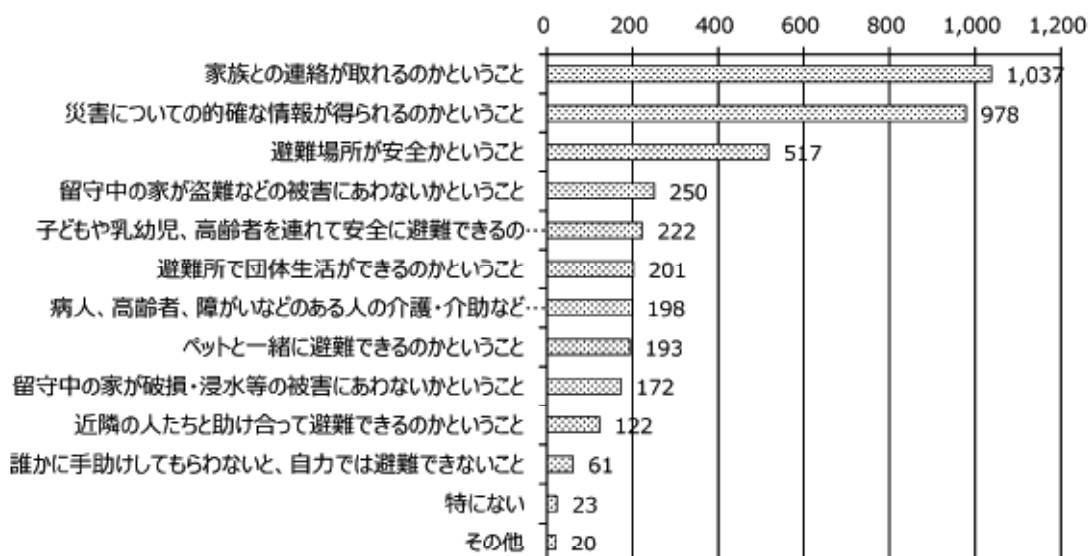
国道 43 号以南の町の方に限定して津波一時避難施設（津波避難ビル）の場所の認知度をみると、平均で 69% の人が「知っている」と答えており、回答者全体の 36% を大きく上回っています。

一方で、町別にみた認知度は 33 から 90% までと大きな差があります。



問 14 災害時に避難する場合、あなたが特に心配なことは何ですか。(○は3つまで)

「家族との連絡が取れるのかということ」と「災害についての的確な情報が得られるのかということ」が非常に多くなっています。

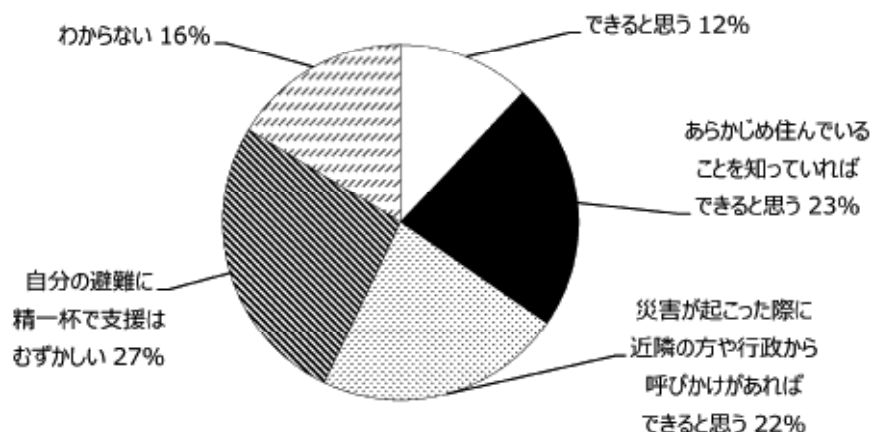


避難所の物資の不足（避難しても飲料水・食糧は不十分であるということで支援もいつになるかわからない、避難場所での体、精神面でのケアができるか、行政の対応、等を含む）	4
避難場所が遠くて災害時に歩いていけない。車もない。（家族が高齢のため介助がないと動けないこと、体力がないため何があっても今のマンションにいと決めている、我家は歳以上の高齢者と障害者だけです。火災以外の災害時は大テーブルの下へ避難することにしています、等を含む）	4
避難経路の安全性（自分も周辺住民も避難訓練と同じ行動がとれるか、避難所の山手小学校に行くまでに災害に会うのではないかと、等を含む）	3
避難時に芦屋を離れていた際、芦屋に戻り家族が集合できるかどうか（子どもが自力で避難できるか、別居しているので自宅の家族のことが心配、等を含む）	3
食糧等の不足（常備菜が無くなった場合の入手方法、避難建物に指定されていれば避難してきた人を家に入れないといけないうか、等を含む）	2
山の近く海が遠く何となく安全な思い	1

問 15 災害時に避難する必要がある時、あなたは近隣の病人、高齢者、障がいなどのある人などを誘導・支援しながら避難することができますか。（○は1つ）

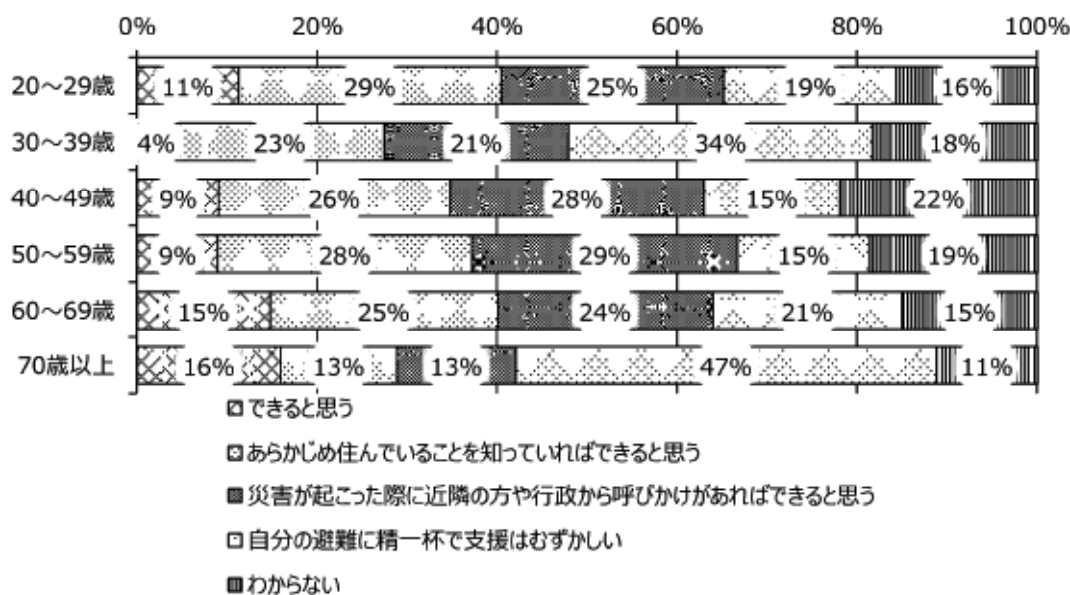
「できると思う」と答えた人は 12%でしたが、「あらかじめ住んでいることを知っていればできると思う」と「災害が起こった際に近隣の方や行政から呼びかけがあればできると思う」を加えると、条件さえ整えば半数以上の人誘導・支援できると回答しています。

【N=1,565】



### 回答者の年代別にみた誘導・支援の可能性

「できると思う」、「あらかじめ住んでいることを知っていればできると思う」、「災害が起こった際に近隣の方や行政から呼びかけがあればできると思う」を合計した割合は、30歳代と70歳以上以外の年代で6割を超えています。



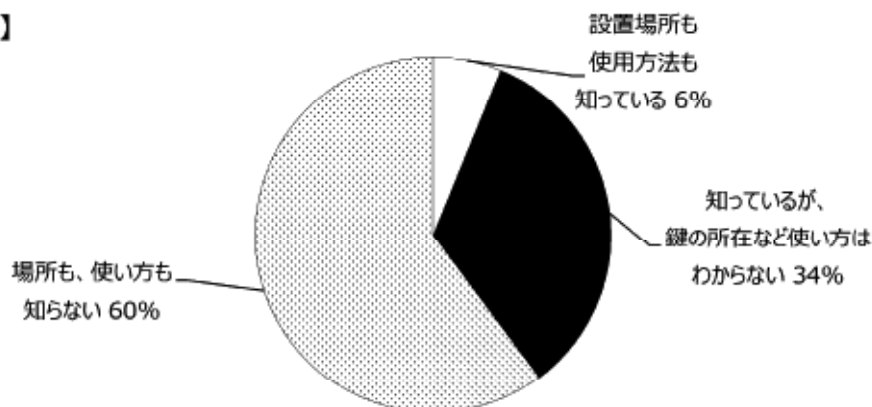
問 16 あなたは、お住まいの地域の防災倉庫や貯水槽（飲料水）などが、どこに設置されているかご存知ですか。（○は1つ）

市内には、災害の発生に備え、防災倉庫や貯水槽（飲料水）などが地域ごとに設置されていますが、その場所や備え付けの設備の使い方がわからないと、いざという時の役に立ちません。

回答者のうち「設置場所も使用方法も知っている」と答えた人は6%にとどまり、また、施設があることを「知っているが、鍵の所在など使い方はわからない」人は34%でした。

平成16年の「芦屋市まち・人・暮らし活性化推進アンケート」では、設置場所も使用方法も知っているのが4.2%、知っているが鍵の所在などの使い方はわからない23.4%であったのに対し、今回はそれぞれ6%・34%となっており、地域や市による啓発活動の効果が出ていると考えられます。

【N=1,562】

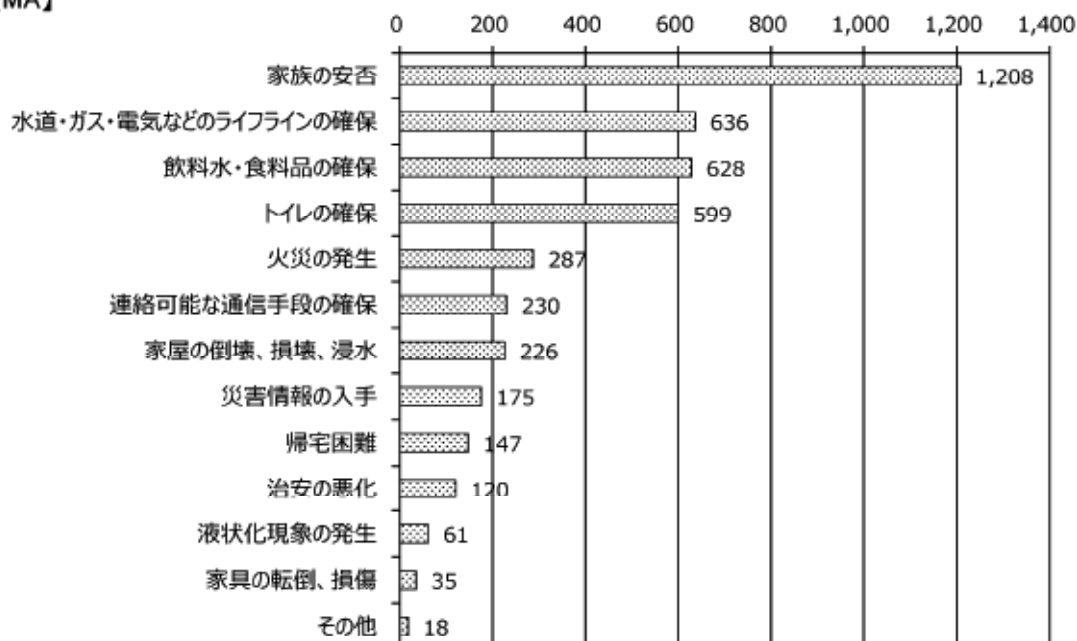


なお、このような施設の場所は、芦屋市が配布している「防災マップ」に記されていますので、ぜひご確認ください。また、鍵の場所や設備の使用方法などについては、お住まいの地区の自主防災組織にお問い合わせください。

問 17 災害が発生した時に、避難に関すること以外で特に心配をしていることは何ですか。(〇は 3 つまで)

「家族の安否」が突出して多く、次いで「水道・ガス・電気などのライフラインの確保」、  
「飲料水・食料品の確保」、「トイレの確保」が多くなっています。

【MA】



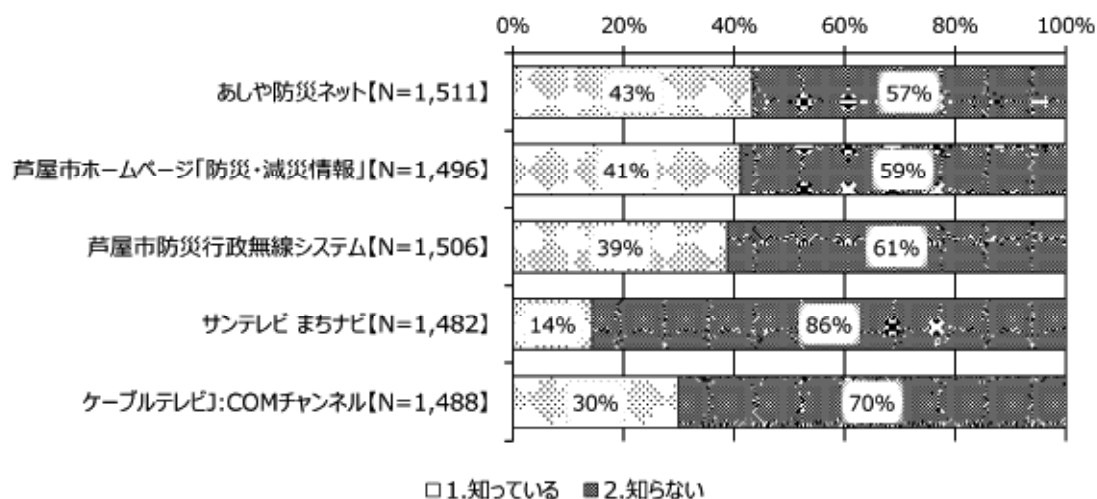
他人の世話に関すること（一人で避難できない近隣の老人，障害者のため何もできない，医療が必要な場合の事，けが人の治療等専門家が来るまでに出来ることがあったらしたい，等を含む）	5
ペットの扱い（生活，安否とペットの居場所の確保，困り，等を含む）	4
寝る場所の確保	1
原付など移動手段の確保	1
資金	1
冷静な判断ができるかどうか	1
原発事故	1
津波への対応	1
行政の対応	1
全て	1



## 4 市の防災情報や防災対策について

問 18 本市では様々な手段で防災や災害についての情報を発信しています。下記の情報提供方法についてご存知ですか。

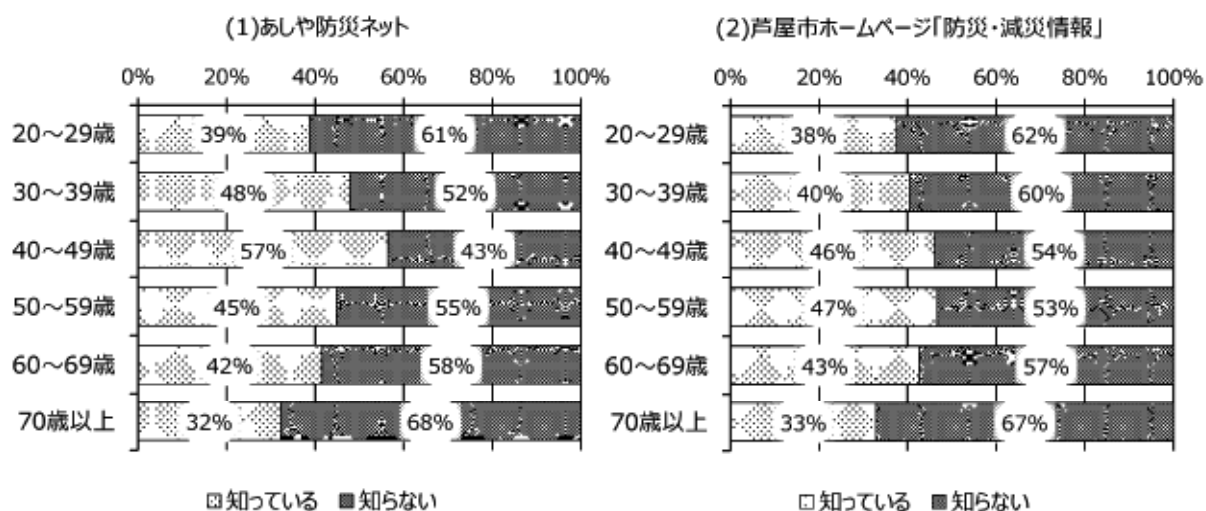
いずれの情報提供方法も「知っている」と回答した人は、全回答者の半数以下となっています。



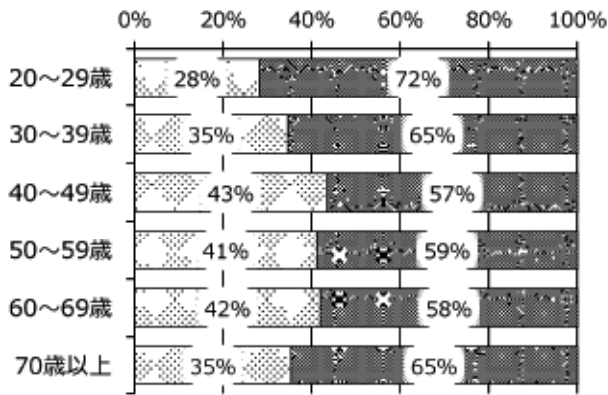
### 回答者の年代別にみた情報提供方法の認知度

(1)あしや防災ネット，(2)芦屋市ホームページ「防災・減災情報」，(3)芦屋市防災行政無線システムは 40 歳代を中心に認知度が高いのに対し，(4)サンテレビ「まちなび」は 60 歳代以上の高齢者で認知度が高くなっています。

ケーブルテレビ J:com チャンネルの認知度は，年代別に大きな開きがありません。

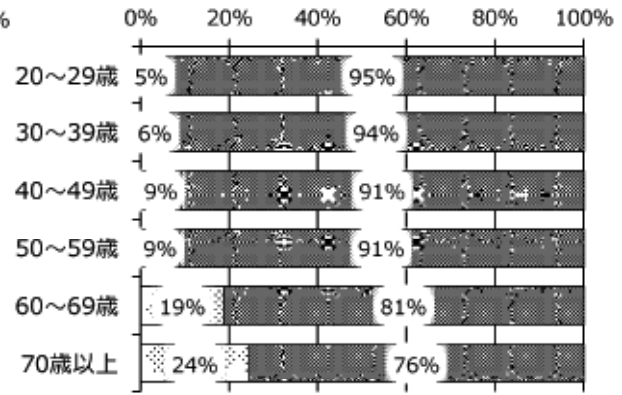


(3) 芦屋市防災行政無線システム



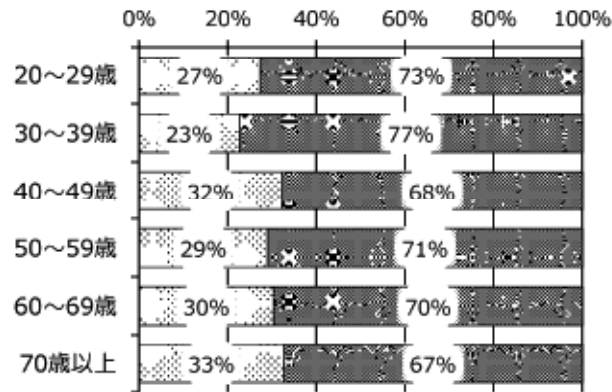
□ 知っている ■ 知らない

(4) サンテレビ まちなび



□ 知っている ■ 知らない

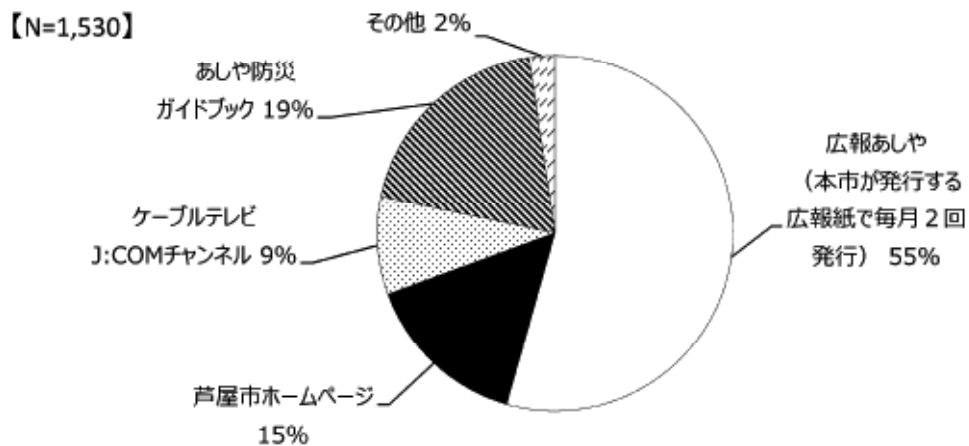
(5) ケーブルテレビJ:comチャンネル



□ 知っている ■ 知らない

問 19 平常時に本市が発信する防災や災害についての情報を、あなたが最も利用しやすいと考える手段は何ですか。(〇は 1 つまで)

利用しやすいと答えた人が最も多かったのは「広報あしや」で、全回答者の半数を超えています。  
 一方で、メール配信などネットを活用した情報提供を求める回答もあります。



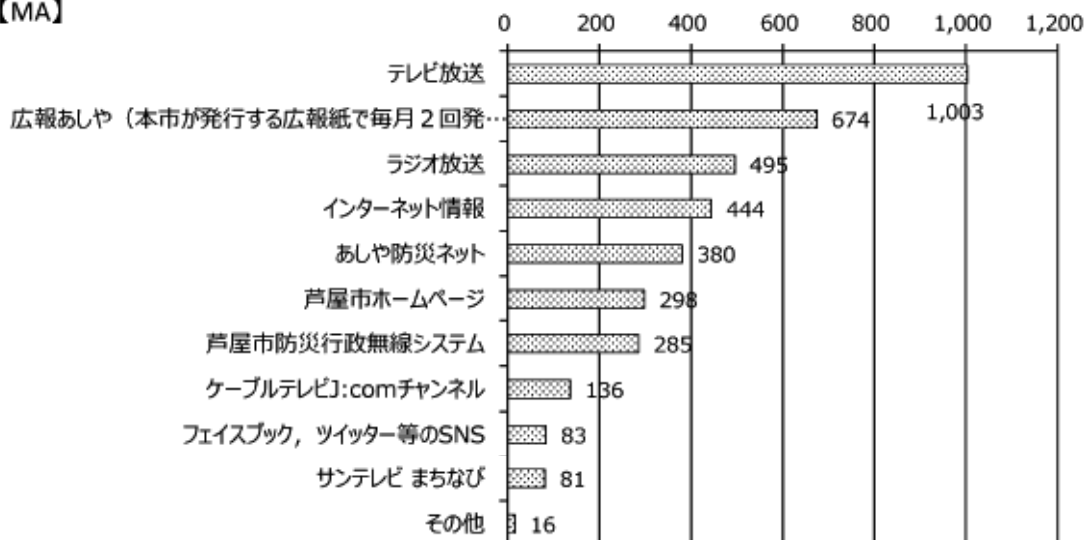
メール配信 (個人へのメール, 定期的なメール情報発信, 等を含む)	6
地域での共有 (自主防災組織, 回覧板, マンションの管理人さん, 友人から, 等を含む)	4
あしや防災ネット	3
防災無線システム	2
テレビ	2
ラジオ	2
携帯電話	2
広報が全戸に配布してほしい	1
LINE	1
ネット	1
自然にまかせる	1
知らない	1

問 20 あなたが本市以外も含めた防災や災害の情報を得るための手段のうち、特に重要と考えるものはどれですか。(〇は3つまで)

市の防災・災害情報とは対照的に、「テレビ放送」や「ラジオ放送」、「インターネット情報」などが多くなっています。

一方で、「広報あしや」の情報提供に期待する回答はここでも多くなっています。

【MA】

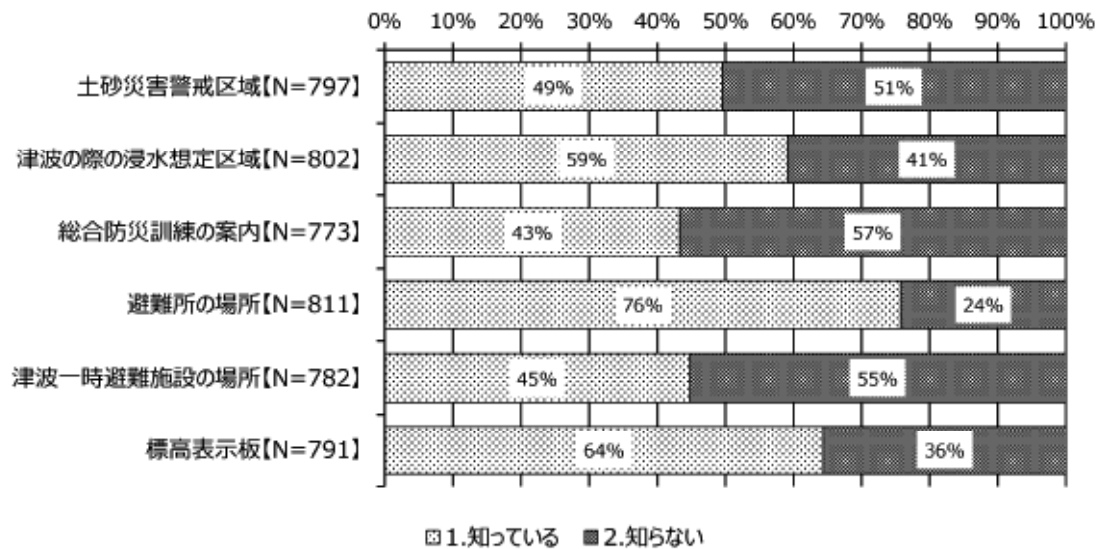


町内放送（市全体へのスピーカー等使用しての生音声の放送アナウンス、等を含む）	2
掲示板（回覧板を含む）	2
地域での共有（マンションの管理人さん、友人よりの話、等を含む）	2
地域の自治会を通じた情報提供・自治会長が地区毎に具体的にわかるように指示	1
芦屋だけでなく神戸市・西宮市などともつながった情報（市境の人などは隣接した市の方が利用しやすい）	1
携帯電話	1
神戸新聞	1
防災、警報のアプリ	1
実際停電等も考えるとネットとかTVは不可能に近いですが、携帯ラジオ、車のナビゲーションのTVは使えます。阪神の時はTV情報が得られず状況がよくわかりませんでした（3日間くらい）	1
海拔表示	1

## 問 21 平常時にも次の情報を市から提供していることを知っていますか。

本市は、防災に関する基礎的な情報や、災害に関する各種のデータを普段から提供しています。

6つの主要な情報に関する認知度を見ると、「避難所の場所」は回答者の76%が情報提供されていることを知っているのに対し、「土砂災害警戒区域」や「津波一時避難施設の場所」、「総合防災訓練の案内」などは50%未満の人にしか知られていません。



問 22 あなたが市から提供してほしい防災や災害についての情報があればお書きください。

155 件の自由回答を、(1)情報提供の時期、(2)災害の種類、(3)情報提供の目的、(4)情報の内容、(5)特定のな情報の対象という 5 つの視点で 28 のグループに区分し、回答数を集計しました。なお、お一人の方で複数の区分に該当する回答をされていることもあります。全体の傾向としては、避難および防災行政無線に関する意見が多くなっています。

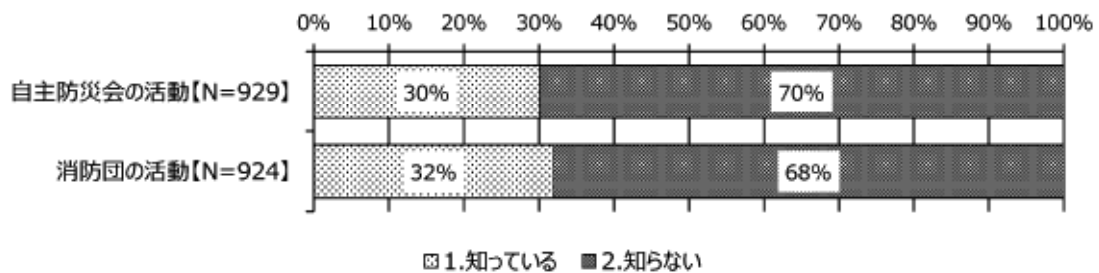
(1)情報提供の時期	①平時（心がけに関すること）	5
	②平時（装備に関すること）	3
	③平時（備蓄に関すること）	7
	④災害の発生直後	10
	⑤防災の初動対応	
	⑥避難，防災活動の実施中	17
	⑦避難，防災活動の終了時（長期化した場合の対応）	8
(2)災害の種類	⑧地震に関すること	6
	⑨津波に関すること	16
	⑩大雨・台風に関すること（水害，崖崩れ）	16
	⑪火災に関すること	2
(3)情報提供の目的	⑫教訓や知見の発掘，継承	19
	⑬行政が持っている情報の公開，共有	
	⑭周知，啓発，教育	16
	⑮訓練	6
	⑯緊急連絡	
(4)情報の内容	⑰避難に関すること	
	⑱帰宅困難に関すること	1
	⑲行政の公助に関すること	8
	⑳住民間の共助に関すること	11
	㉑地域の事業者に関すること	2
	㉒防災行政無線に関すること	
	㉓他の防災等設備に関すること	11
	㉔都市の基盤（ライフライン等）に関すること	7
(5)特定のな情報の対象	㉕身体などの不自由な方に関すること	7
	㉖子どもに関すること	4
	㉗ペットに関すること	5

※網かけは上位 5 件

問 23 「自助・共助・公助」という言葉がありますが、まずは自らの安全を確保すること、そして近隣の住民同士で助け合うことが、災害時には何よりも大切なことです。日ごろから地域防災に努め、いざという時に助け合えるようにしておきましょう。

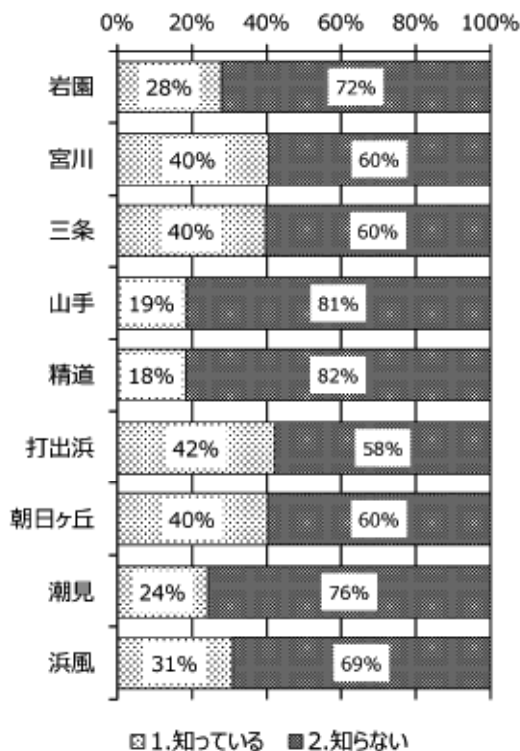
市内の多くの町で、自主防災会が地域の防災のために、地域防災訓練、夜回り、啓発活動などを行なっています。また、消防団が組織され消火活動や啓発活動に携わっています。あなたは自主防災会や消防団の活動を知っていますか。

いずれの回答も、「知っている」と答えた人は全体の3割程度にとどまっています。

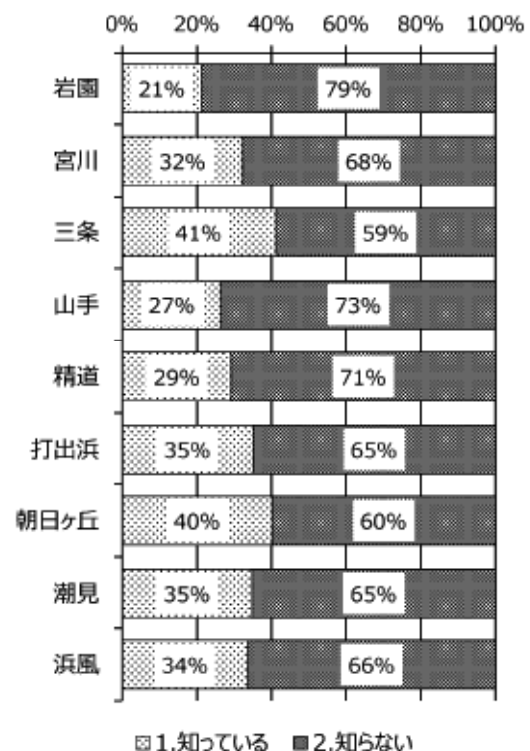


市内のコミュニティ・スクールの地区別に回答をみると、宮川・三条・打出浜・朝日ヶ丘で「知っている」と答えた人の割合がやや高く、岩園・山手・精道ではやや低くなっています。

(1) 自主防災会の活動【N=910】



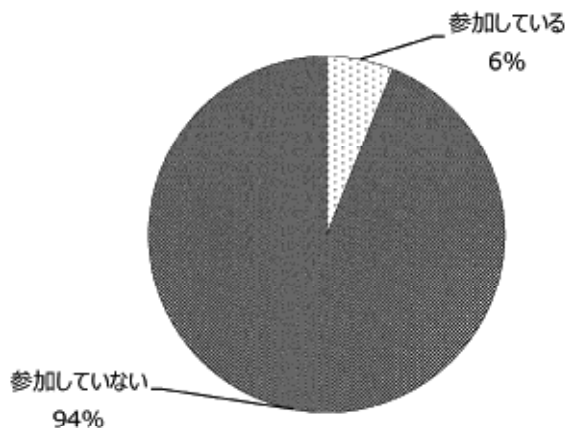
(2) 消防団の活動【N=905】



問 24 あなたは、現在、防災訓練、夜回り、啓発活動などの自主防災会の活動に参加していますか。

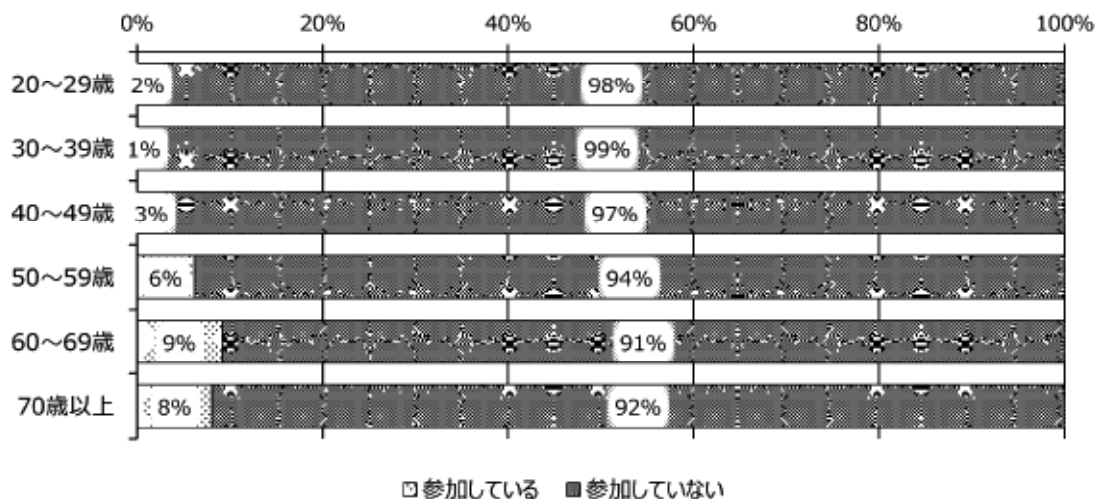
「参加している」と回答した人の割合は6%に止まっています。

【N=1,547】



### 回答者の年代別に見た参加状況

回答者の年代別に参加状況を見ると、若年層で参加率が低い傾向がみえます。

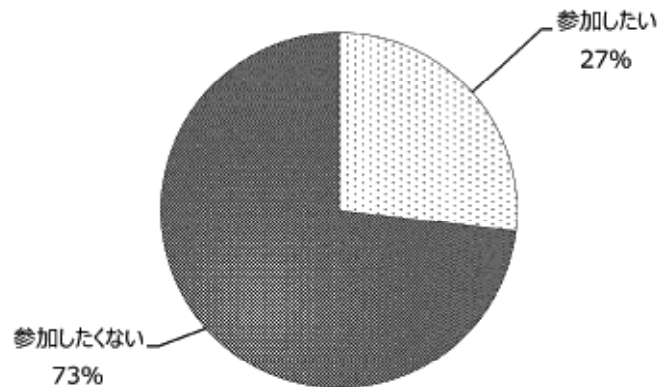




問 25 【問 24 で「2.参加していない」と答えた方のみお答えください】あなたは、今後、自主防災会の活動に参加したいと思いますか。

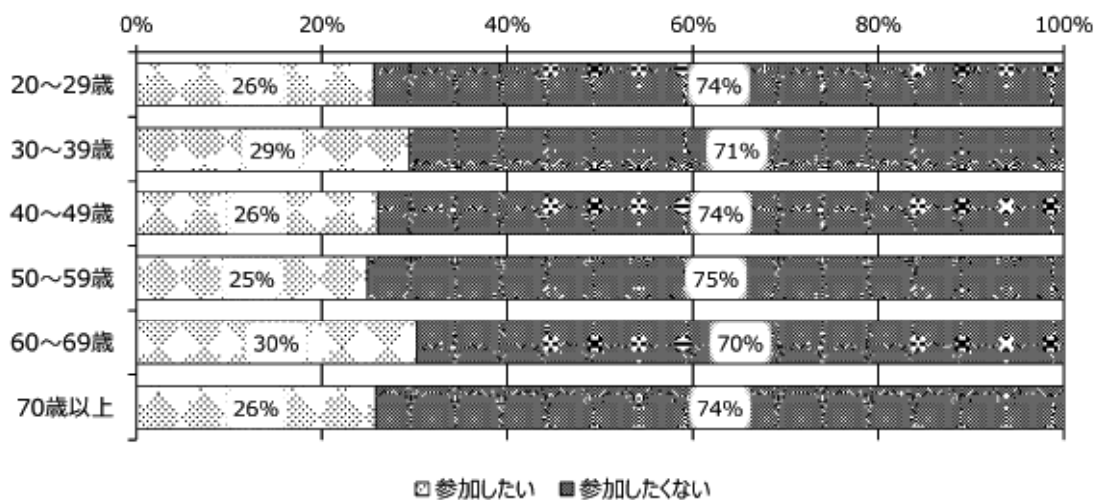
現在「参加していない」人のうち27%の人が、今後は自主防災会の活動に「参加したい」と回答しています。

【N=1,405】



### 回答者の年代別に見た参加への意向

回答者の年代別に参加への意向をみると、年代ごとの大きな開きはみえません。

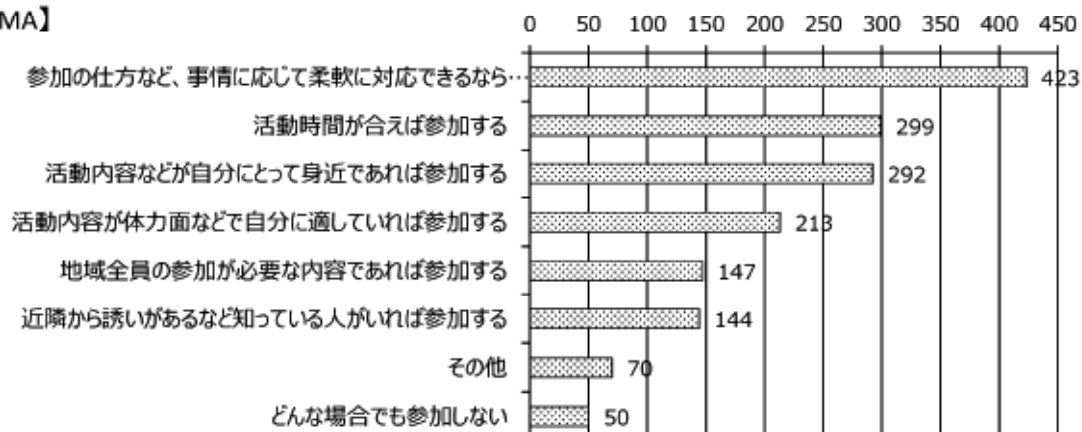


問 26 【問 25 で「2.参加したくない」と答えた方のみお答えください】あなたはどのような状況であれば自主防災会の活動に参加しますか。(〇は3つまで)

「参加の仕方など、事情に応じて柔軟に対応できるなら」の回答が最も多く、次いで「活動時間が合えば参加する」、「活動内容などが自分にとって身近であれば参加する」が多くなっています。

一方、「高齢のため参加できない」という意見も多く寄せられました。

【MA】

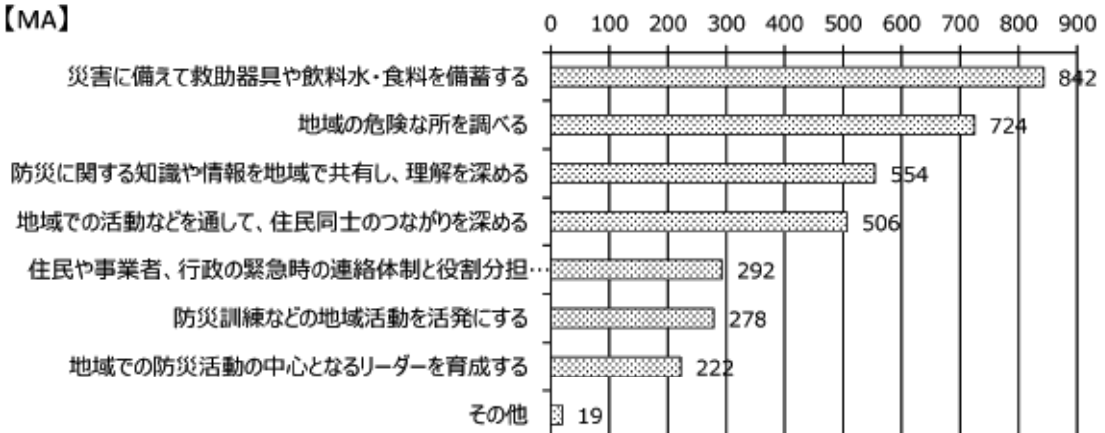


高齢のため参加できない（その他、類似意見を含む）	25
足など身体が不自由なので参加できない（その他、類似意見を含む）	9
忙しいので参加できない（勤務の時間が合わない、等を含む）	6
体力がないので参加できない（やってみたら厳しかった、等を含む）	5
病気のため参加できない（通院のため、等を含む）	5
介護のため参加できない（家族に病人・障がい者・高齢者がいる、等を含む）	4
活動の内容が明確、効果的だとわかれば参加する（イメージできない、自治体の気休めにつきあえない、等を含む）	3
その他（様々な事情、等を含む）	3
子どもが大きくなったら参加する（小学校に上がったなら、等を含む）	2
ペットと一緒に避難させてもらえるなら参加する	1
危険が差し迫る時	1
近所付き合いは息子一家に任せている	1
自分のいる自治会では実施されていません	1
職リタイア後	1
数年参加した	1

問 27 すべての人が安心して暮らせるために、お住まいの地域での防災対策として、今後どのようなことに取り組むべきと思いますか。（〇は3つまで）

「災害に備えて救助器具や飲料水・食料を備蓄する」が最も多く、次いで「地域の危険な箇所を調べる」が多くなっています。

【MA】



災害防止対策 (土砂崩れ対策工事・防潮堤の高さ・強度の確保、宮川の津波対策・改修、等を含む)	4
連絡・応援態勢の確立 (市と国との連絡体制、他市から応援を受ける際のマニュアル作り、等を含む)	3
要支援者への対応(要介護者、ひとり暮らしの高齢者等への対応、等を含む)	2
災害の予測・予知と警報	1
家具の固定方法等を具体的な指導	1
自らを守る意識の向上	1
あまりやってほしくない	1

問 28 その他，防災についてご意見があればお書きください。

334 件の自由回答を，(1)情報提供の時期，(2)災害の種類，(3)情報提供の目的，(4)情報の内容，(5)特定のな情報の対象という 5 つの視点で 29 のグループに区分し，回答数を集計しました。

問 22 と同じく避難および防災行政無線に関する意見が多くなっていますが，⑫教訓や知見の発掘，継承や⑬行政の公助・⑭住民間の共助に関する意見，⑰身体などの不自由な方に関する意見も多くなっています。

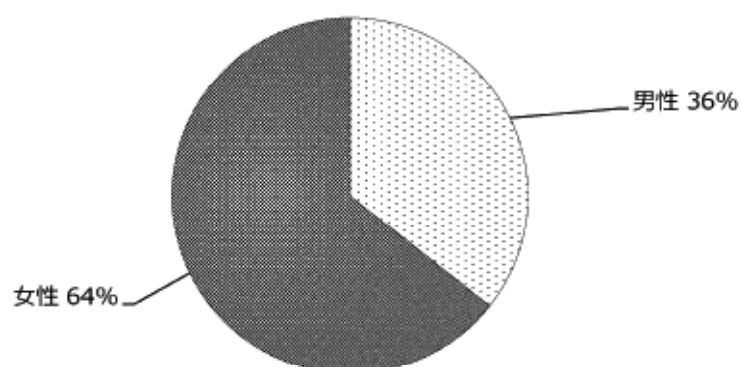
(1)情報提供の時期	①平時（心がけに関すること）	26
	②平時（装備に関すること）	13
	③平時（備蓄に関すること）	17
	④災害の発生直後	3
	⑤防災の初動対応	14
	⑥避難，防災活動の実施中	5
	⑦避難，防災活動の終了時（長期化した場合の対応）	2
(2)災害の種類	⑧地震に関すること	19
	⑨津波に関すること	27
	⑩大雨・台風に関すること（水害，崖崩れ）	22
	⑪火災に関すること	5
(3)情報提供の目的	⑫教訓や知見の発掘，継承	
	⑬行政が持っている情報の公開，共有	48
	⑭周知，啓発，教育	39
	⑮訓練	16
	⑯緊急連絡	
(4)情報の内容	⑰避難に関すること	
	⑬行政の公助に関すること	42
	⑭住民間の共助に関すること	
	⑰地域の事業者に関すること	7
	⑱要援護者の個人情報に関すること	8
	⑲防災行政無線に関すること	
	⑳建物等の安全性に関すること	10
	㉑道路や交通の安全性に関すること	6
	㉒ライフラインの確保・復旧に関すること	11
	㉓その他の防災等設備に関すること	28
(5)特定のな情報の対象	⑰身体などの不自由な方に関すること	29
	㉔子どもに関すること	9
	㉕ペットに関すること	1

※網かけは上位 5 件

## 5 回答者の属性について

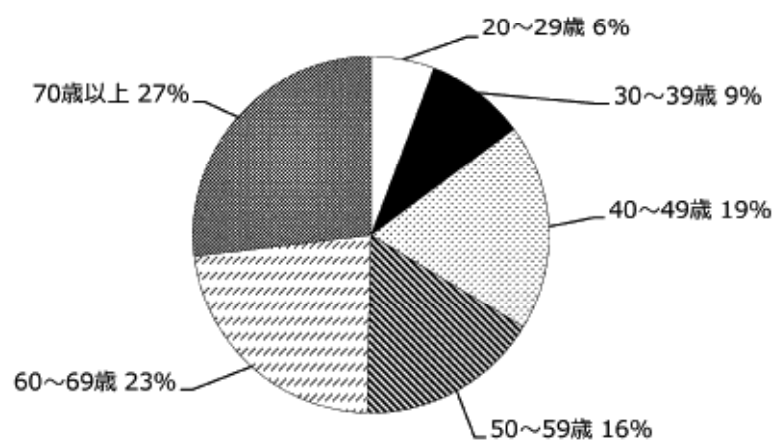
### ①性別をお選びください

【N=1,557】



### ②年齢をお選びください

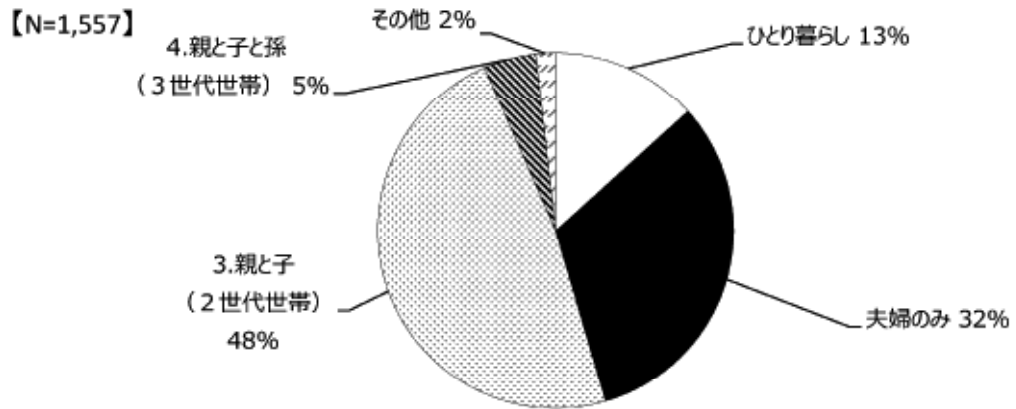
【N=1,565】



平成16年実施の「芦屋市まち・人・暮らし活性化推進アンケート」の回答者属性と、ほとんど差はありませんでした。

他の年齢層に比べて70歳以上の層がやや増大していますが、社会の高齢化による程度の範囲と考えられます。

③家族構成をお選びください（○は1つ）



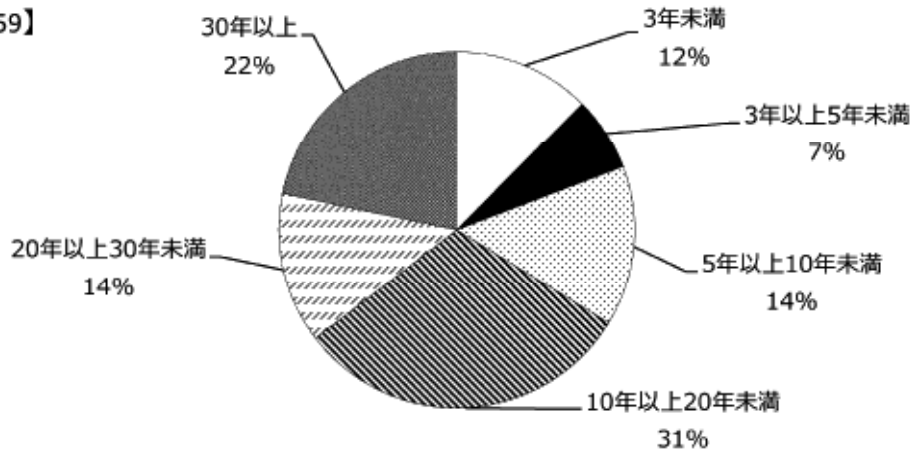
その他の親族（兄弟姉妹，叔父母，従兄弟・姉妹，等）を含む世帯	7
友人	1
家事手伝い	1

④あなたがお住まいの町名をお選びください（〇は1つ）

町名	件数	割合	町名	件数	割合
1.剣谷	0	0.0%	31.津知町	20	1.3%
2.奥山	4	0.3%	32.竹園町	21	1.3%
3.奥池町	9	0.6%	33.精道町	16	1.0%
4.奥池南町	9	0.6%	34.浜芦屋町	19	1.2%
5.山手町	26	1.7%	35.平田北町	11	0.7%
6.山芦屋町	20	1.3%	36.伊勢町	24	1.5%
7.東芦屋町	25	1.6%	37.松浜町	31	2.0%
8.西山町	25	1.6%	38.平田町	20	1.3%
9.三条町	34	2.2%	39.打出小槌町	21	1.3%
10.大原町	50	3.2%	40.宮塚町	18	1.2%
11.船戸町	18	1.2%	41.若宮町	10	0.6%
12.松ノ内町	16	1.0%	42.宮川町	13	0.8%
13.月若町	6	0.4%	43.浜町	42	2.7%
14.西芦屋町	10	0.6%	44.西蔵町	31	2.0%
15.三条南町	20	1.3%	45.呉川町	52	3.3%
16.上宮川町	9	0.6%	46.春日町	37	2.4%
17.業平町	13	0.8%	47.打出町	8	0.5%
18.前田町	7	0.5%	48.南宮町	59	3.8%
19.清水町	9	0.6%	49.大東町	57	3.7%
20.朝日ヶ丘町	114	7.3%	50.新浜町	30	1.9%
21.東山町	39	2.5%	51.浜風町	24	1.5%
22.六麓荘町	7	0.5%	52.高浜町	70	4.5%
23.岩園町	54	3.5%	53.若葉町	56	3.6%
24.翠ヶ丘町	75	4.8%	54.緑町	32	2.0%
25.親王塚町	26	1.7%	55.潮見町	22	1.4%
26.楠町	58	3.7%	56.陽光町	33	2.1%
27.茶屋之町	14	0.9%	57.海洋町	19	1.2%
28.大樹町	14	0.9%	58.南浜町	13	0.8%
29.公光町	9	0.6%	59.涼風町	6	0.4%
30.川西町	23	1.5%		1,558	100.0%

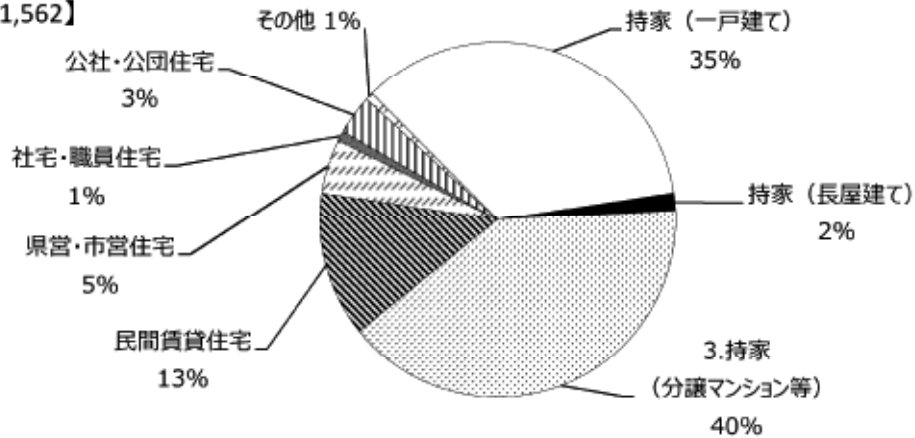
⑤あなたがお住まいの場所の居住年数（○は1つ）

【N=1,559】



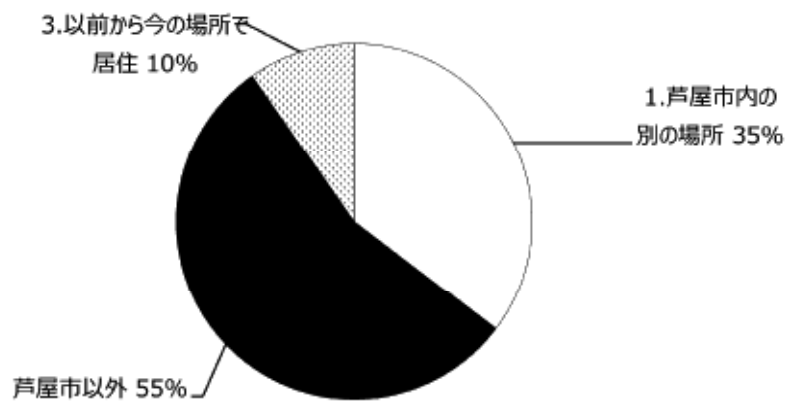
⑥あなたがお住まいの住宅（○は1つ）

【N=1,562】



⑦以前のお住まいの場所（○は1つ）

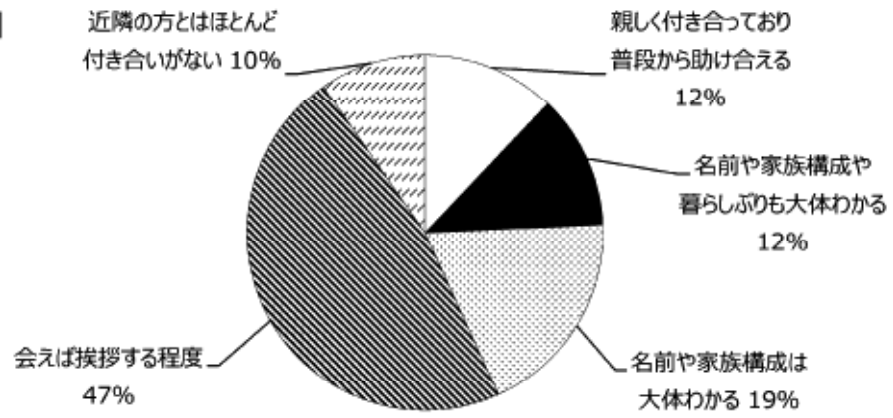
【N=1,543】





⑧日頃の近所づきあいの程度をお答えください（〇は1つ）

【N=1,557】



## 6 インターネットやソーシャルネットワークの活用について

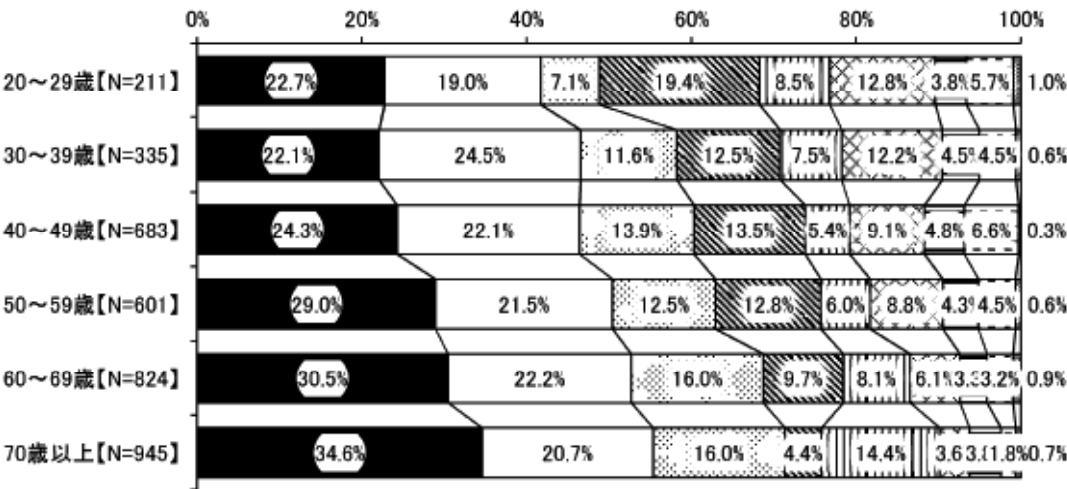
近年，若い世代を中心にインターネットやソーシャルネットワークを活用した情報の収集や共有が進んでいます。企業や公共団体が幅広く発信する情報も，家族や知人など閉じたコミュニティで共有する情報も，携帯電話やスマートフォン，PCなどを介してやりとりすることが当たり前になりつつあります。

ここでは，特にインターネットやソーシャルネットワークの活用に関係の深い設問について，回答者の年代別に集計しています。

### 問7 防災意識を高めたり，持続されるために必要と思うことは何ですか。

「インターネットやソーシャルメディアで防災情報を確認すること」は20歳代が19.4%ともっとも多く，他の必要と思うことと比較しても2番目に多く（優先度が高く）なっています。

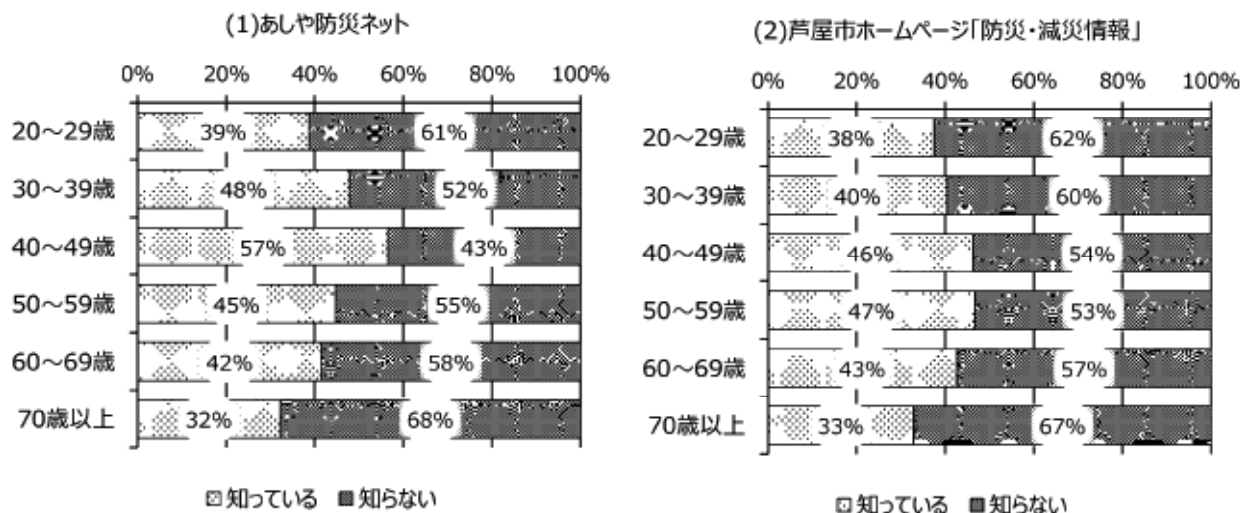
30～50歳代では13%前後とやや少なくなり，60歳代，70歳以上の高齢者では優先度がかなり低くなっています。



- テレビや新聞、ラジオなどで防災情報を確認すること
- 防災用品や備蓄品などを定期的に確認すること
- 市や自治会の防災情報を確認すること
- インターネットやソーシャルメディアで防災情報を確認すること
- 防災用品を常に見える所に置くこと
- 家族や友人、近所で災害経験や防災について話す機会を増やすこと
- 防災訓練や学習会・ボランティアに参加すること
- 防災について考える日(時間)を設けること
- その他

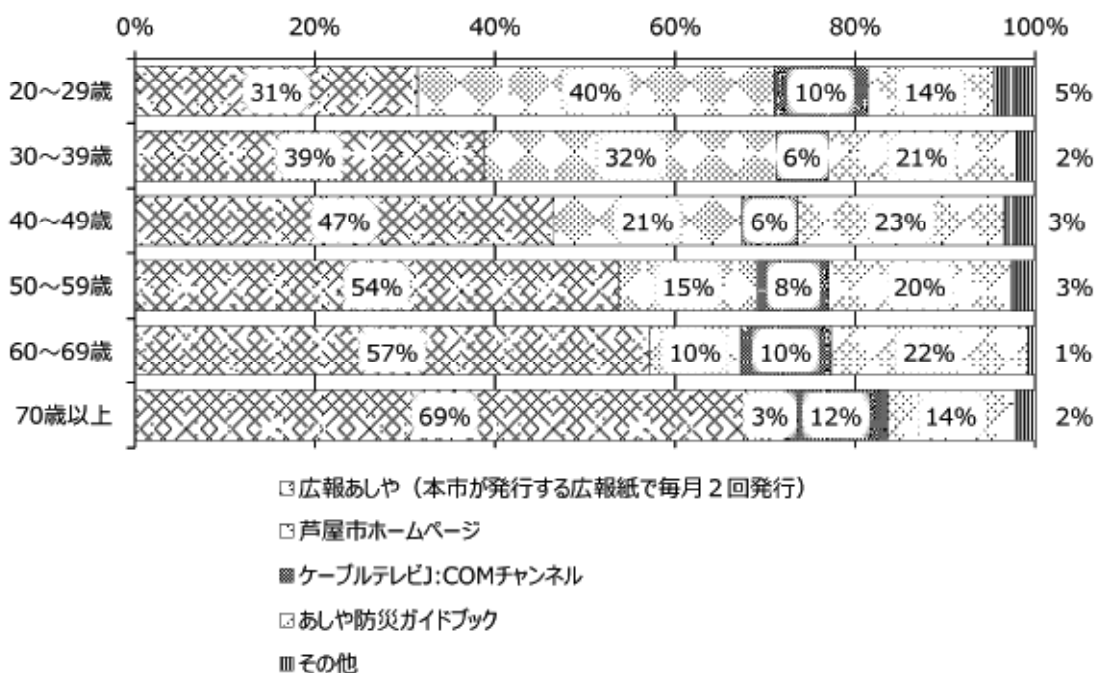
問 18 本市では様々な手段で防災や災害についての情報を発信しています。下記の情報提供方法についてご存知ですか。

あしや防災ネットや芦屋市ホームページ「防災・減災情報」といったインターネットを利用した情報提供では、40歳代を中心に認知度が高くなっています。



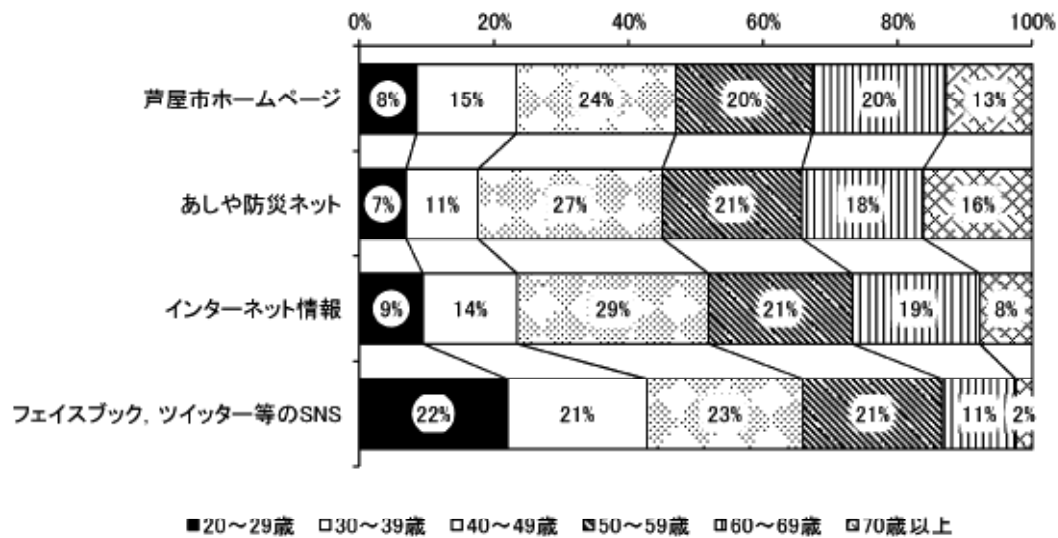
問 19 平常時に本市が発信する防災や災害についての情報を、あなたが最も利用しやすいと考える手段は何ですか。

「芦屋市ホームページ」がもっとも利用しやすいと回答した人の割合は、20歳代では40%ともっとも多くなっていますが、年代が高くなるにつれて低くなる傾向があり、70歳以上では3%となっています。



問 20 あなたが本市以外も含めた防災や災害の情報を得るための手段のうち、特に重要と考えるものはどれですか。

「芦屋市ホームページ」や「あしや防災ネット」、その他の「インターネット情報」を重要と考える回答の割合が40～60歳代で多くなっているのに対し「フェイスブック、ツイッター等のSNS」を重要視する回答の割合は20歳代から60歳代でほぼ均等になっています。



## 7 アンケート結果のまとめと今後の課題

今回のアンケート結果からは、以下に示す6点の問題点が大きく浮き上がってきました。

### 1. 防災行政無線が聞き辛い – 芦屋市防災行政無線の適切な運用と訓練

問 22 及び問 28 の自由意見欄で、その有効性や機能について多くの指摘がありました。全市域で同様の指摘があることから、防災行政無線自体の設置方法や性能の改善が急務と考えられます。テレビ等と異なり、市内にいさえすればどんな状況でも情報が提供できるよう設置された唯一の媒体であることから、すべての人に正確な情報を伝えられる信頼性が必要と考えます。

また、現在、無線テストを平日の日中を中心に行っていることから、同じ市民の方でも認知度に差があるようです。性能のテストだけでなく、訓練の本旨に沿った夜間や早朝などの訓練を行うなど、就労等によって日中は自宅にいない市民の方にも防災行政無線の存在を認知してもらうための工夫が必要となっています。

### 2. あしや防災ネット等、行政発信媒体が利用されていない – 媒体の周知

問 14 では、災害時に避難する場合に特に心配なこととして「災害についての的確な情報が得られるのかということ」が2位にであることなど、被災時における情報収集の必要を感じておられる方は多いようですが、被災状況や避難情報を最短で伝えられるあしや防災ネット／防災行政無線／サンテレビのまちナビ／芦屋市ホームページの防災・減災情報を知っている方は回答者の半数を下回っています。

一方で、問 7 の結果によると、防災意識を高めるために「テレビや新聞、ラジオなどで防災情報を確認すること」という回答が1,000件を超えています。問 12 においても、災害の備えをするために「テレビ・ラジオ・新聞などのマスコミ報道」が参考になるという回答が1,312件で最も多く、問 20 では、防災や災害の情報を得るための手段のうち特に重要と考えるものとして「テレビ放送」が最も多くなっています。

テレビや新聞などのマスコミは、一般的な災害の知識や広域的な災害情報を得る上では非常に有用ですが、災害が身近に迫っている時には被災地から直接発信される一次情報を確実に把握することも重要です。地域の特性を踏まえ日頃からきめ細かな備えをしているという点でも、まず市が発信する情報を素早く市民に届けることが重要と考えます。市が提供する防災情報の媒体については従来も周知に努めてきたところですが、日中は市内におられないなど、これまで啓発活動に触れにくかった市民の方にも媒体の存在を知ってもらえるような工夫が必要となっています。

### 3. 実情に合った準備ができていない — 経験・教訓の共有

前述の通り、防災や災害情報を得る手段として「テレビ放送」が特に重要だと回答する人が多くなっています。また、問11では、災害発生時に家族と連絡を取る手段として「携帯電話・スマートフォンで連絡」と回答した人が最も多くなっていますが、20年前の阪神・淡路大震災ではこれらの機材で情報収集や安否確認ができなかった状況もありました。東日本大震災では災害直後からインターネットなどを経由した個人発信の情報が広く伝播しましたが、一部では通信局の壊滅により被災地から外部に連絡が取れない状況なども発生しています。

当時の実態を記憶に残している人がまだ多いうちに、それを個人の印象や教訓にとどめず、社会の変化や地理的条件などを踏まえ「いま、ここで起きたらどうなるか」という具体的な想定に変えていくことが必要です。そのためにも、地域や職場、学校の防災訓練などによって、地域単位のイメージを共有しておくことが必要となっています。

### 4. 自分の備えしかできてない — 共助が必要となる状況の想定

一人で避難できない住民を支援する、AEDを実際に使ってみるなど災害の実態に沿った濃い内容の防災訓練が地域単位で毎年行われているにもかかわらず、自主防災会の活動や消防団の活動についての認知度は3割に止まっています。また、実際に自主防災会の活動に参加していると回答した人は1割に届きませんでした。

10年前のアンケートでは、震災経験後の変化として「となり近所などの他人との結びつきを大切に思うようになった」との回答が50.1%に上りましたが、今回調査の問2で「ご近所とのつながりを強めた」と回答した人は16.1%に止まっています。設問に微妙なニュアンスの差はありますが、かつて多くの命を救った共助の役割、必要性は忘れられつつあると考えられます。

災害に対する備えを何も行っていない人は全体の4%であることなど、ほとんどの人が防災に関する何らかの意識を持っているにも関わらず、マスコミなどで頻繁に発信される家庭単位の備えに止まっていることがうかがえます。

個人や家族だけでの避難が非常に難しい状況や、避難生活が長引く状況は東日本大震災などでも同様に発生しています。自助は大切なことであるものの、一人一人の想定範囲を拡げるために、大規模災害の経験と教訓を継承し続けることが必要となっています。

## 5. 支援を必要とする人に支援が行き届かない危険性がある

### — 近隣での援助を可能にする仕組みづくり

問 14 では、「誰かに手助けしてもらわないと、自力では避難できないこと」を心配なこととして挙げる回答が 61 件ありました。今後、高齢化が進む本市では、災害時に近隣による助け合いがなければ、すべての住民が安全に避難することは不可能になってきます。

また、問 15 では「呼びかけがあれば近隣の病人、高齢者、障がいのある人を誘導・支援しながら避難することができる」という回答が半数を超えていますが、属性の回答では「名前や家族構成が大体わかる」程度の近所づきあいが半数を下廻るなど、高い意識はあるものの共助の基盤が弱まっているのが市の現状です。

実際に助け合える状態を作っていく上では、共助の基盤を再び強化していくことだけでなく、共助の仕組みづくりも重要になってきます。本来は日常的な人付き合いの中で自然に知るのが一番ですが、個人情報保護の問題を整理した上で要援護者台帳を共有するなど、援助の必要な人の情報を近隣で把握できるような手法を検討していくことが必要となっています。

## 6. 本当に必要な人が訓練に参加できていない — 防災訓練の工夫と成果の検証・統合

問 25 で、自主防災会の活動に現在参加していない人のうち参加を希望する人の割合は、どの年代でも概ね 3 割弱となっています。問 26 では多くの方が「参加の仕方など、事情に応じて柔軟に対応できるなら」参加すると回答しておられるなど、地域とのつながりが薄い人でも参加しやすい状況を作っていくことで裾野を広げられる可能性が見えてきました。

また、同じく問 25 の自由記述欄では「高齢のため参加できない」という回答が 25 件あります。実際の事情は様々だと考えられますが、災害時に日常生活の場から移動するのが困難な方々には、福祉部局や地域の高齢者支援団体などと連携し、その場で災害を想定した行動を試してもらうなどの一般向けとは異なる訓練を折り込んでいくことも考えられます。

前述の課題のいくつかは、地域の自主防災訓練を工夫することである程度の対策が可能なものもありますので、市民全員が参加する防災訓練にも大きな意味がありますが、可能な範囲で「誰がどう動けるのか」を個々に把握しておくことも必要となっています。





芦屋市阪神・淡路大震災20周年事業



## 防災についての市民アンケート

本市では、阪神・淡路大震災から20年の節目にあたり、震災犠牲者への哀悼の意を表するとともに、震災で得た経験と教訓を次世代に継承し、災害に強いまちづくりを進めるため、「未来へつなぐ」～いのち・まち・こころ～をテーマに、阪神・淡路大震災20周年事業を実施しています。

その一環として、震災の記憶や経験・教訓の継承と災害に強いまちづくりを推進するため防災についてのアンケート調査を行なうものです。この調査から得られた結果を基に防災力、減災力を高めるとともに、今後の安全・安心のまちづくりの基礎資料として活用してまいります。

なお、この調査は、本市に住民登録をしている20歳以上の方のうち無作為に抽出した3千人を対象に実施しています。調査は無記名とし、ご回答いただきました内容は、調査目的以外に利用することはありません。また、調査結果につきましては報告書として公表してまいります。

本市の防災・減災対策を考える上での貴重な資料となりますので、ぜひ、ご協力をお願いいたします。

平成26年11月

芦屋市長 山中 健

### 防災についての市民アンケートについて

これは防災についての市民アンケート調査票です。

英語版のアンケート調査票、またはふりがな付きのアンケート調査票が必要な場合は、ご連絡ください。芦屋市企画部企画課 e-mail [kikaku@city.ashiya.lg.jp](mailto:kikaku@city.ashiya.lg.jp)

### Citizen Survey on Disaster Prevention

If you need either an English version or a Japanese with *furigana* version of the questionnaire, please contact the office below:

Ashiya City Planning Department Planning Section  
e-mail [kikaku@city.ashiya.lg.jp](mailto:kikaku@city.ashiya.lg.jp)

**【ご記入にあたって】**

- ① 質問に対しては、日ごろ防災について注意しておられることや考えをお答えください
- ② 回答の記入は、この調査票の該当する選択肢の番号を○印で囲んでください。鉛筆または黒のボールペンではっきりとご記入ください
- ③ 回答方法は、設問により○印の数を指定しているものがありますので、指定された数にしたがって○印をつけてください
- ④ 回答が「その他」にあてはまる場合は、お手数ですが、( )内になるべく具体的にその内容をご記入ください
- ⑤ 調査票および封筒には住所・氏名の記入は不要です
- ⑥ 回答が終わりましたら、記入もれがないかご確認の上、同封の返信用封筒にて回答期限までにご投函ください

**回答期限 11月21日（金）**

**【アンケート調査に関するお問い合わせ】**

芦屋市企画部企画課 阪神・淡路大震災20周年事業担当

TEL 0797-38-2127

**阪神・淡路大震災の記憶や経験・教訓の継承についておうかがいします。**

問1 あなたは、阪神・淡路大震災を体験されましたか。(〇は1つ)

1. 体験した → 問2へお進みください。 2. 体験していない → 問3へお進みください。  
(幼少期のため記憶していない場合を含む)

問2 震災を体験した当時、あなたの考え方や行動に変化はありましたか。あれば特に変化があったのはどのような内容ですか。(〇は3つまで)

1. 家庭で災害に備えるようになった  
2. 職場で災害に備えるようになった  
3. 災害共済や地震保険に加入した  
4. 居住地の災害に対する危険性を調べた  
5. 家族や親戚とのつながりを強めた  
6. ご近所とのつながりを強めた  
7. 防災活動やボランティアに参加するようになった  
8. 防災情報への関心が高まった  
9. その他の意識の変化 ( )  
10. 特に変化はない

— 問4へお進みください。

問3 家族や友人など周囲にいる阪神・淡路大震災を体験した人から、阪神・淡路大震災の話を知ったり、自分で調べたりしたことにより、あなたの考え方や行動に変化はありましたか。あれば特に変化があったのはどのような内容ですか。(〇は3つまで)

1. 家庭で災害に備えるようになった  
2. 職場で災害に備えるようになった  
3. 災害共済や地震保険に加入した  
4. 居住地の災害に対する危険性を調べた  
5. 家族や親戚とのつながりを強めた  
6. ご近所とのつながりを強めた  
7. 防災活動やボランティアに参加するようになった  
8. 防災情報への関心が高まった  
9. その他の意識の変化 ( )  
10. 特に変化はない  
11. 話を知ったり、教わったりしたこと自体がない

問4 【問2または問3で変化があったと答えた方のみお答えください】阪神・淡路大震災から20年が経とうとしていますが、問2または問3で答えたあなたの考え方や行動は現在まで持続していますか。

1. 持続している                      2. 持続していない

問5 阪神・淡路大震災以降の自然災害がきっかけで、あなたの考え方や行動に変化はありましたか。

1. 変化があった                      2. 特に変化はない → 問7へお進みください

問6 【問5で「1.変化があった」と答えた方のみお答えください】あなたの考え方や行動に特に変化をもたらすきっかけとなったのはどの災害ですか。(○は1つ)

1. 東日本大震災      2. 有珠山・三宅島噴火      3. 新潟県中越沖地震  
4. 平成23年台風12号風水害      5. 平成23年東北地方寒波  
6. 平成26年台風19号風水害      7. 広島県土砂災害      8. 御嶽山噴火  
9. その他の災害 (                      )

問7 防災意識を高めたり、持続されるために必要と思うことは何ですか。(○は3つまで)

1. 防災用品や備蓄品などを定期的に確認すること  
2. テレビや新聞、ラジオなどで防災情報を確認すること  
3. 家族や友人、近所で災害経験や防災について話す機会を増やすこと  
4. 防災用品を常に見える所に置くこと  
5. インターネットやソーシャルメディアで防災情報を確認すること  
6. 市や自治会の防災情報を確認すること  
7. 防災訓練や学習会・ボランティアに参加すること  
8. 防災について考える日(時間)を設けること  
9. その他 (                      )

#### **災害に対する備えについておたずねします。**

阪神・淡路大震災で本市は甚大な被害を受けました。その後、国内外で大規模な自然災害が発生し、ここ数年でも、台風や集中豪雨などによる被害や、竜巻などの被害も多数発生し、私たちの生活に多大な影響を及ぼしています。

このような自然災害による被害を最小限にとどめるには、日ごろからの備えが重要です。

問8 現在あなたが災害に備えて行なっているものに、それぞれ○をつけてください。

災害に備えて行なっている対策	該当すれば○
例 避難用品袋を枕元に置いて寝ている	<input checked="" type="radio"/>
1. 消火器や水をはったバケツを準備している	<input type="radio"/>
2. いつも風呂の水をため置きしている	<input type="radio"/>
3. 家具や冷蔵庫などを固定し、転倒を防止している	<input type="radio"/>
4. 食器棚や本棚は揺れによって中のものが飛び出さないように工夫している	<input type="radio"/>
5. ケンシは固定し、壁が壊れたとき壁が飛び出さないように壁ロックや壁ラッチなどを付けている	<input type="radio"/>
6. ガー倒れてきても安全なように、家具の向きを変えている	<input type="radio"/>
7. 新しい家具を買う時は、背が低いものを選ぶ	<input type="radio"/>
8. 基本的に、重いものは頭より上に置かないようにしている	<input type="radio"/>
9. 飲料水や食料を備蓄している	<input type="radio"/>
10. 携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している	<input type="radio"/>
11. 非常持ち出し用衣類、毛布などを準備している	<input type="radio"/>
12. スリッパやズック靴などをいつでも使えるように置いている	<input type="radio"/>
13. 小銭を含むいくらかの現金を準備している	<input type="radio"/>
14. 貴重品などをすぐに持ち出せるように準備している	<input type="radio"/>
15. 防塵マスクを準備している	<input type="radio"/>
16. 就寝時にも、避難に必要なものをすぐに持ち出せるよう準備している	<input type="radio"/>
17. 修理・工作用具を準備している	<input type="radio"/>
18. 非常用トイレを準備している	<input type="radio"/>
19. ハザードマップで災害時の避難場所を確認している	<input type="radio"/>
20. 近くの学校や公園など避難する場所を決めている	<input type="radio"/>
21. 外出時や帰宅困難時の防災用品を準備している	<input type="radio"/>
22. 土砂災害や川に氾濫の危険がある地域を確認している	<input type="radio"/>
23. 窓ガラスを強ガラスに替えたり、ガラス窓に飛散防止フィルムを貼ったりしている	<input type="radio"/>
24. ブロック塀を点検し、倒壊を防止している	<input type="radio"/>
25. 自宅等の耐震補強工事をしている	<input type="radio"/>
26. 耐震診断を行ない、自分の家の危険度を把握している	<input type="radio"/>
27. 予備のメガネ、常備薬、入れ歯や補聴器などなければ困るものを準備している	<input type="radio"/>
28. 風水害に備え、土のうを用意している	<input type="radio"/>
29. 一人で避難できない家族の避難の手段を確保している	<input type="radio"/>
30. 家族とはくちぎりに換え、避難用がランナー用袋。用意はくちぎりに変えたランナー袋を準備している	<input type="radio"/>
31. ハットの避難場所を確保している	<input type="radio"/>
32. 防災訓練に積極的に参加している	<input type="radio"/>
33. その他（ ）	<input type="radio"/>
34. 何もしていない	<input type="radio"/>

問9 避難した先に十分な備蓄があるとは限らないため、避難する際には、準備している備蓄を持参する必要があります。ご自宅に、災害用に備蓄する飲料水・食料（調理不要な食品）は、最低何日分が必要だと思えますか。また、実際にご自宅では何日分を備蓄していますか。

(1) 何日分の備蓄が必要だと思えますか	1. 1日分	2. 2日分	3. 3日分	4. 4日分	5. 5日分	6. 6日分	7. 7日以上	8. わからない
(2) ご自宅では何日分を備蓄していますか	1. 1日分	2. 2日分	3. 3日分	4. 4日分	5. 5日分	6. 6日分	7. 7日以上	8. 備蓄していない

問10【該当される方のみお答えください】アレルギー疾患のある方や食事療法をされている方のための特別な食料は何日分を備蓄していますか。

ご自宅では何日分を備蓄していますか	1. 1日分	2. 2日分	3. 3日分	4. 4日分	5. 5日分	6. 6日分	7. 7日以上	8. 備蓄していない
-------------------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	---------	------------

問11 あなたの世帯では、地震や風水害などの災害が発生した時に家族と一緒にいない場合、家族との集合場所や連絡方法をどのように決めていますか？（○はいくつでも）

<ul style="list-style-type: none"><li>1. 固定電話で連絡</li><li>2. 携帯電話・スマートフォンで連絡</li><li>3. 携帯電話・スマートフォンのメールで連絡</li><li>4. 携帯電話・スマートフォン用の災害用伝言板で連絡</li><li>5. 災害用伝言ダイヤル1717で連絡</li><li>6. パソコンのメールで連絡</li><li>7. 災害用ブロードバンド伝言板WEB1717で連絡</li><li>8. SNS（ツイッター・フェイスブック・ミクシィなど）で連絡</li><li>9. 電話がかかりやすい離れた地域の親戚や知人を連絡先として決めている</li><li>10. その他の方法で連絡（ )</li><li>11. 集合場所だけ決めている</li><li>12. 決めていない</li></ul>
---

問12 災害への備えをするために何が参考になると思えますか。（○は3つまで）

<ul style="list-style-type: none"><li>1. テレビ・ラジオ・新聞などのマスコミ報道</li><li>2. 阪神・淡路大震災の経験や教訓</li><li>3. 市の広報紙、あしや防災ガイドブック、パンフレット等</li><li>4. 家族や知人の話</li><li>5. 防災訓練などのイベント</li><li>6. 学校・地域・職場での学習</li><li>7. 災害に関する本</li><li>8. その他（ )</li></ul>
--

**災害が発生した時の避難についておうかがいします。**

地震や風水害などが発生し、避難が必要になった場合、あなたはすぐに行動できますか？いざというとき備えていないために、日ごろから避難する場所と安全な道順を確認しておくことが重要です。

避難勧告が出たにもかかわらず避難せず被害にあう事例も多くみられます。津波や大雨による避難の勧告や指示が出たときは、すみやかに避難し、避難勧告が出ていなくても、気象情報などに注意して早めの避難が大切です。

**問 13 災害時の避難場所（近隣の避難所、国道43号以南の津波一時避難施設（津波避難ビル））がどこにあるかご存知ですか。**

(1) 近隣の避難所	1. 知っている	2. 知らない
(2) 国道43号以南の津波一時避難施設	1. 知っている	2. 知らない

**問 14 災害時に避難する場合、あなたが特に心配なことは何ですか。（〇は3つまで）**

1. 災害についての的確な情報が得られるのかということ
2. 家族との連絡が取れるのかということ
3. 病人、高齢者、障がいなどのある人の介護・介助などが十分にできるのかということ
4. 子どもや乳幼児、高齢者を連れて安全に避難できるのかということ
5. 誰かに手助けしてもらわないと、自力では避難できないこと
6. 近隣の人たちと助け合って避難できるのかということ
7. 避難場所が安全かということ
8. ハットと一緒に避難できるのかということ
9. 避難所で団体生活ができるのかということ
10. 留守中の家が破損・浸水等の被害にあわないかということ
11. 留守中の家が盗難などの被害にあわないかということ
12. その他（ ）
13. 特になし

**問 15 災害時に避難する必要がある時、あなたは近隣の病人、高齢者、障がいなどのある人などを誘導・支援しながら避難することができますかと思えますか。（〇は1つ）**

1. できると思う
2. あらかじめ住んでいることを知っていればできると思う
3. 災害が起こった際に近隣の方や行政から呼びかけがあればできると思う
4. 自分の避難に精一杯で支援はむずかしい
5. わからない

問 16 あなたは、お住まいの地域の防災倉庫や貯水槽（飲料水）などが、どこに設置されているかご存知ですか。（○は1つ）

- 1. 設置場所も使用方法も知っている
- 2. 知っているが、鍵の所在など使い方はわからない
- 3. 場所も、使い方も知らない

問 17 災害が発生した時に、避難に関すること以外で特に心配をしていることは何ですか。（○は3つまで）

- |                        |              |
|------------------------|--------------|
| 1. 家族の安否               | 9. 災害情報の入手   |
| 2. 水道・ガス・電気などライフラインの確保 | 10. 治安の悪化    |
| 3. 飲料水・食料品の確保          | 11. 帰宅困難     |
| 4. トイレの確保              | 12. 液状化現象の発生 |
| 5. 連絡可能な通信手段の確保        | 13. その他      |
| 6. 家屋の倒壊、損壊、浸水         | ( )          |
| 7. 火災の発生               | 14. 特になし     |
| 8. 家具の転倒、損傷            |              |

**市の防災情報や防災対策についておうかがいします。**

本市では、様々な方法で市民に災害情報を提供し、早めに避難するなどの安全確保に努めていただくようにしています。また、災害に備えて、日ごろから行政による啓発活動や地域を中心とした防災訓練などを行ない、地域の防災力を高め、少しでも被害を少なくするよう努めています。

正確な情報を入手し、できるだけ早く行動することを心がけましょう。

問 18 本市では様々な手段で防災や災害についての情報を発信しています。下記の情報提供方法についてご存知ですか。

(1) あしや防災ネット	1. 知っている	2. 知らない
(2) 戸屋市ホームページ「防災・減災情報」	1. 知っている	2. 知らない
(3) 戸屋市防災行政無線システム	1. 知っている	2. 知らない
(4) サンテレビ まちなび	1. 知っている	2. 知らない
(5) ケーブルテレビ J:com チャンネル	1. 知っている	2. 知らない



\*あしや防災ネット（アドレス <http://bosai.net/ashiya/>）

携帯電話やパソコンに登録しておくと災害情報がメールで送られてきます。

\*芦屋市防災行政無線システム

市内 39 か所に設置された屋外拡声子局により、サイレンおよび災害情報を放送します。

\*サンテレビ まちなび

サンテレビデータ放送。リモコンの d ボタンの後に「まちなび」または「芦屋市」を選択することで利用できます。

問 19 平常時に本市が発信する防災や災害についての情報を、あなたが最も利用しやすいと考える手段は何ですか。（○は 1 つまで）

1. 広報あしや（本市が発行する広報紙で毎月 2 回発行）
2. 芦屋市ホームページ
3. ケーブルテレビ J:com チャンネル
4. あしや防災ガイドブック
5. その他（ ）

\*あしや防災ガイドブック

南海トラフ巨大地震ハザードマップ、防災情報マップ（土砂災害版）とともに、平成 26 年 6 月に各戸に配布しています。

問 20 あなたが本市以外も含めた防災や災害の情報を得るための手段のうち、特に重要と考えるものはどれですか。（○は 3 つまで）

1. 広報あしや（本市が発行する広報紙で毎月 2 回発行）
2. 芦屋市ホームページ
3. あしや防災ネット
4. 芦屋市防災行政無線システム
5. サンテレビ まちなび
6. ケーブルテレビ J:com チャンネル
7. テレビ放送
8. ラジオ放送
9. インターネット情報
10. フェイスブック、ツイッター等の SNS
11. その他（ ）

問 21 平常時にも次の情報を市から提供していることを知っていますか。

(1) 土砂災害警戒区域	1. 知っている	2. 知らない
(2) 津波の際の浸水想定区域	1. 知っている	2. 知らない
(3) 総合防災訓練の案内	1. 知っている	2. 知らない
(4) 避難所の場所	1. 知っている	2. 知らない
(5) 津波一時避難施設の場所	1. 知っている	2. 知らない
(6) 標高表示板	1. 知っている	2. 知らない

\* 標高表示板

津波発生時の避難行動の目安にするため市内主要道路 30 か所に整備しています。

問 22 あなたが市から提供してほしい防災や災害についての情報があればお書きください。  
(自由回答)

問 23 「自助・共助・公助」という言葉がありますが、まずは自らの安全を確保すること、そして近隣の住民同士で助け合うことが、災害時には何よりも大切なことです。日ごろから地域防災に努め、いざという時に助け合えるようにしておきましょう。  
市内の多くの町で、自主防災会が地域の防災のために、地域防災訓練、夜回り、啓発活動などを行なっています。また、消防団が組織され消火活動や啓発活動に携わっています。あなたは自主防災会や消防団の活動を知っていますか。

(1) 自主防災会の活動	1. 知っている	2. 知らない
(2) 消防団の活動	1. 知っている	2. 知らない

問 24 あなたは、現在、防災訓練、夜回り、啓発活動などの自主防災会の活動に参加していますか。

1. 参加している → 問 27 へお進みください      2. 参加していない

問 25 【問 24 で「2.参加していない」と答えた方のみお答えください】あなたは、今後、自主防災会の活動に参加したいと思いますか。

1. 参加したい → 問 27 へお進みください      2. 参加したくない

問 26 【問 25 で「2.参加したくない」と答えた方のみお答えください】 あなたはどのような状況であれば自主防災会の活動に参加しますか。(〇は3つまで)

1. 活動内容などが自分にとって身近であれば参加する
2. 参加の仕方など、事情に応じて柔軟に対応できるなら参加する
3. 近隣から誘いがあるなど知っている人がいれば参加する
4. 活動時間が合えば参加する
5. 活動内容が体力面などで自分に適していれば参加する
6. 地域全員の参加が必要な内容であれば参加する
7. その他 ( )
8. どんな場合でも参加しない

問 27 すべての人が安心して暮らせるために、お住まいの地域での防災対策として、今後どのようなことに取り組むべきと思いますか。(〇は3つまで)

1. 地域の危険な所を調べる
2. 災害に備えて救助器具や飲料水・食料を備蓄する
3. 地域での防災活動の中心となるリーダーを育成する
4. 防災訓練などの地域活動を活発にする
5. 地域での活動などを通して、住民同士のつながりを深める
6. 防災に関する知識や情報を地域で共有し、理解を深める
7. 住民や事業者、行政の緊急時の連絡体制と役割分担を決める
8. その他 ( )

問 28 その他、防災についてご意見があればお書きください。

統計的に処理する上で必要な項目ですので回答をお願いします。

① 性別をお選びください	1. 男性	2. 女性																																																									
② 年齢をお選びください	1. 20～29歳	2. 30～39歳	3. 40～49歳	4. 50～59歳	5. 60～69歳	6. 70歳以上																																																					
③ 家族構成をお選びください (○は1つ)	1. ひとり暮らし	2. 夫婦のみ	3. 親と子 (2世代世帯)	4. 親と子と孫 (3世代世帯)	5. その他 ( )																																																						
④ あなたがお住まいの町名をお選びください (○は1つ)	1. 剣谷	2. 奥山	3. 奥池町	4. 奥池南町	5. 山手町	6. 山芦屋町	7. 東芦屋町	8. 西山町	9. 三条町	10. 大塚町	11. 船戸町	12. 松ノ内町	13. 月苜町	14. 西芦屋町	15. 三条南町	16. 上宮田町	17. 粟平町	18. 前田町	19. 清水町	20. 朝日ヶ丘町	21. 東山町	22. 六麓荘町	23. 岩園町	24. 翠ヶ丘町	25. 親玉塚町	26. 楠町	27. 茶屋之町	28. 大樽町	29. 公光町	30. 川西町	31. 津知町	32. 竹園町	33. 精道町	34. 浜芦屋町	35. 平田北町	36. 伊勢町	37. 松浜町	38. 平田町	39. 打出小畑町	40. 宮塚町	41. 若宮町	42. 宮川町	43. 浜町	44. 西蔵町	45. 豊田町	46. 春日町	47. 打出町	48. 南宮町	49. 大東町	50. 新浜町	51. 浜風町	52. 高浜町	53. 若葉町	54. 緑町	55. 潮見町	56. 陽光町	57. 海洋町	58. 南浜町	59. 涼風町
⑤ あなたがお住まいの場所の居住年数 (○は1つ)	1. 3年未満	2. 3年以上5年未満	3. 5年以上10年未満	4. 10年以上20年未満	5. 20年以上30年未満	6. 30年以上																																																					
⑥ あなたがお住まいの住宅 (○は1つ)	1. 持家 (一戸建て)	2. 持家 (長屋建て)	3. 持家 (分譲マンション等)	4. 民間賃貸住宅	5. 県営・市営住宅	6. 社宅・職員住宅	7. 公社・公団住宅	8. その他																																																			
⑦ 以前のお住まいの場所 (○は1つ)	1. 芦屋市内の別の場所	2. 芦屋市以外	3. 以前から今の場所で居住																																																								
⑧ 日頃の近所づきあいの程度をお答えください (○は1つ)	1. 親しく付き合っており普段から助け合える	2. 名前や家族構成や暮らしぶりも大体わかる	3. 名前や家族構成は大体わかる	4. 会えば挨拶する程度	5. 近隣の方とはほとんど付き合いがない																																																						

ご協力ありがとうございました。回答されたアンケートは、記入もれなどがなければ確認し、11月21日(金)までに、同封の返信用封筒でお近くのポストに投函してください。